

80th
1941~2021

人と地球の架け橋に

竹中土木コーポレートレポート

Corporate Report 2021



わが国で唯一の「土木専門ゼネコン」として…
環境と共生する強靱な社会基盤の構築に向けて取り組む
当社の事業活動をステークホルダーの皆様にお伝えします。

■編集方針

2020年より会社案内(事業概要紹介)とサステナビリティレポート(CSR活動報告)を統合した「竹中土木コーポレートレポート」は、当社並びに竹中グループの「CSRビジョン」を示すとともに当社の事業活動全体をステークホルダーの皆様によりわかりやすくお伝えするものです。誌面の都合で掲載できないコンテンツや事例、データについては竹中土木WEBサイトに掲載しています。

contents

竹中土木について

トップメッセージ	4
会社/グループ概要	6
竹中土木のあゆみ	8
グループ成長戦略と竹中土木のビジョン	10

特集

Feature-1 働き方を変える「生産性革新」	12
Feature-2 未来へつなぐ「働き方改革」	14

事業活動

国土を支える「地盤改良」	16
社会をつなぐ「交通インフラ」	18
社会インフラを支える「トンネル」	20
暮らしを守る「治水・利水」	22
クリーンエネルギー & 環境整備	24
土地活用 & インフラ補強	26
海外プロジェクト	28
未来を拓く「技術開発」	30
ニーズに応える「設計 & 技術提案」	32
事業活動を支える「管理部門」	33

CSR活動/ステークホルダーとともに

CSRビジョン/ステークホルダーの皆様とともに未来へつなぐ	34
地球環境を守る/美しい地球を未来の子供たちに遺す	36
地域社会に貢献する/地域社会の持続的な発展に寄与する	38
お客様のために/最良のソリューションでお客様の信頼を得つづける	40
従業員とともに/多様な人格・個性を尊重し互いに成長しつづける	42
マネジメント/公平公正な事業活動を推進・展開する	44
ステークホルダーとの対話/多様な人々とともに…	46
グループ会社/竹中道路の活動/明日へとつづく道づくり	47

対 象 期 間	2020年1月～2020年12月(当該年以外の活動も一部掲載しています)
対 象 範 囲	当社の活動をまとめていますが、一部(株)竹中工務店との共同活動及び、(株)竹中道路の活動も含まれています。
参考ガイドライン	環境省の「環境報告ガイドライン 2018年版」を参考にしました。
公 開	2021年4月(次回公開予定:2022年4月)
お問い合わせ先	経営戦略室 TEL. 03-6810-6493 FAX. 03-6660-6301 ホームページ https://www.takenaka-doboku.co.jp/



時代のニーズと社会の要請に応えつづける

当社は1941年の創立以来、時代とともに変化する社会やお客様の要請に応えながら「ものづくり」の道を堅実に歩みつづけてきました。

「創立75周年」(2016年)を機に…私たちはこれまでの歩みを振り返るとともに「将来の会社像＝あるべき姿」をしっかりと見据えた「竹中土木2025年ビジョン」を策定。この5年間で躍進への礎を築き、これからも持続的に発展していくために全社員が意識を共有しながら「ビジョン実現」への歩みを加速させています。

私たち建設業は、将来にわたって「強くしなやかな国土をつくる」という使命を担っています。また、「働き方改革」や「生産性革命」など様々なイノベーションが求められています。そこで、近年の社会環境を踏まえて「国土強靱化の意識を高めた広義に亘る環境共生の社会基盤を構築していくこと」を念頭に、社会資本ストックの長寿命化やICTを活用した生産性改革などで企業価値のさらなる向上を目指し、ステークホルダーの皆様の“満足と信頼”を一層高めながら進化をつづけていきたいと考えています。

ダム・トンネル・シールド・土地造成など本業の深耕はもとより、益々要望が高まる防災・減災やリニューアブル分野の開拓に加え、東南アジアを基軸とする海外事業を一層拡充していきます。特に激甚化する自然災害に対し、政府は「防災・減災、国土強靱化」を加速するために、本年から5か年で15兆円の対策を講じるとしていますが、私たち建設業は「国土づくりの担い手」とあり、災害時には最前線で国民の安全を確保する等「地域の守り手」としての役割をしっかりと果たしていきたいと思ひます。さらに、新規事業にも継続的に取り組み、建設請負業の枠を越えた「新領域」への挑戦を加速させて新しい価値を創生していきます。

併せて、企業の財産である従業員の待遇改善と休日の取得促進、ダイバーシティへの取り組み等を継続。加えて、ワークプレイスの改革や業務プロセスの見直しなど多様なアプローチで「柔軟な働き方」や「生産革新」を追求…昨年のコロナ禍においても全社を挙げてリモートワークを推進し、内外勤が一体となって業務効率の向上を図るなど、誰もが健康に安心して働ける職場環境の整備を加速させて「社員満足度の向上」を目指しています。

2015年9月の国連サミットでは、2030年までに達成すべき『持続可能な開発目標＝SDGs』が加盟193か国によって採択されました。私たちは、竹中工務店グループの一員である誇りを胸に、事業活動のあらゆる場面で「SDGs」を積極的に推進…求められる役割を着実に遂行するとともに、豊かで安全な国民生活の追求とサステナブル社会の実現に向けて挑みつづけます。

さらに、時代の潮流を敏感に捉えて新たな分野に果敢にチャレンジすることで持続的に発展をつづけ、社会的責任を果たしながら「魅力溢れる輝く企業」へと進化していきます。

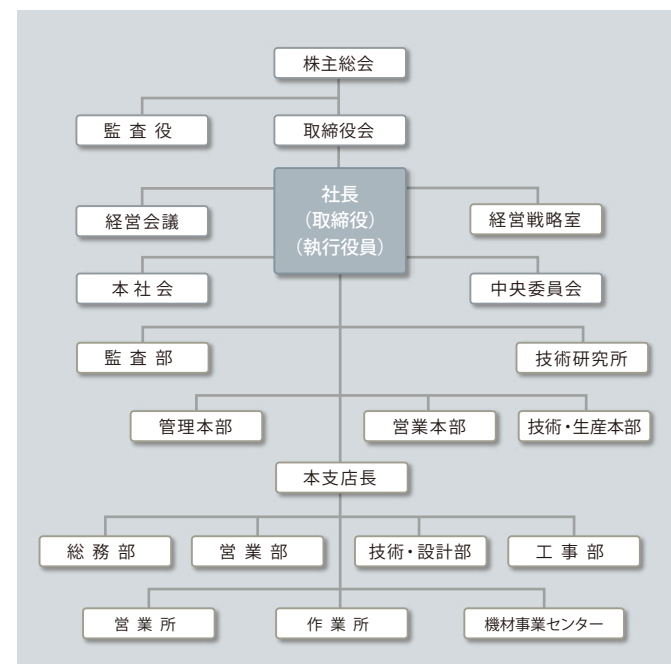
2021年1月
取締役社長

竹中康一

会社概要

社 名	株式会社 竹中土木		
本社所在地	東京都江東区新砂一丁目1番1号		
設 立	1941年6月25日		
資 本 金	70億円（2021年1月現在）		
売 上 高	950億円（2020年度）		
受 注 高	920億円（2020年度）		
従 業 員 数	914名（2021年1月現在） 技術系職員 687名 事務系職員 227名		
資 格 者 数	一級土木施工管理技士 552名 技術士 81名 宅地建物取引士 56名		
事 業 内 容	土木工事及び建築工事の請負、設計及び監理 不動産関連業務 地域・都市・海洋開発及び環境整備事業 前各号の業務に係わるエンジニアリング、 マネジメント及びコンサルティング業務 前各号に付帯する業務		
取 引 銀 行	三菱UFJ銀行 みずほ銀行 三井住友銀行		

組 織 図



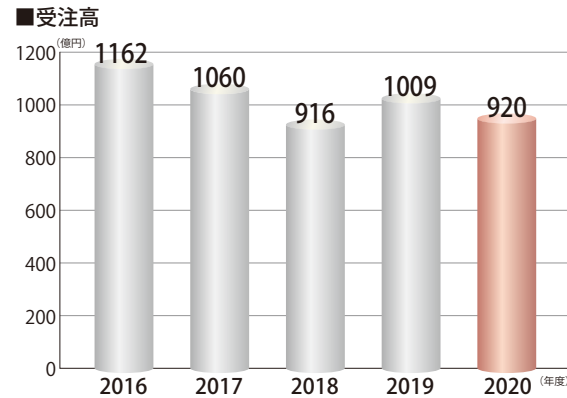
本支店・営業所一覧

●本 社	東京都江東区新砂1-1-1 〒136-8570 ☎ 03-6810-6200
●北海道支店	札幌市中央区大通西4-1 〒060-0042 ☎ 011-241-6428
●東北支店	仙台市青葉区国分町3-4-33 〒980-0803 ☎ 022-221-7681
盛岡営業所	盛岡市大通3-3-10 〒020-0022 ☎ 019-623-0234
福島営業所	福島市五月町10-17酪農会館401 〒960-8061 ☎ 024-563-1421
●東京本店	東京都江東区新砂1-1-1 〒136-8570 ☎ 03-6810-6218
横浜支店	横浜市西区花咲町6-145 〒220-0022 ☎ 045-321-3141
新潟営業所	新潟市中央区東大通1-2-23 〒950-0087 ☎ 025-282-5837
●名古屋支店	名古屋市中区錦2-2-13 〒460-0003 ☎ 052-231-2121
北陸営業所	福井市中央3-3-23 〒910-0006 ☎ 0776-97-6871
静岡営業所	静岡市葵区追手町2-20 〒420-0853 ☎ 054-255-9104
三重営業所	桑名市長島町浦安131-9 〒511-1135 ☎ 0594-45-8216
●大阪本店	大阪市中央区本町4-1-13 〒541-0053 ☎ 06-6252-4081
四国支店	高松市西内町12-11 〒760-0022 ☎ 087-851-8427
神戸営業所	神戸市中央区浜辺通2-1-17 〒651-0083 ☎ 078-252-3355
京都営業所	京都市中京区壬生賀陽御所町3-1 〒604-8811 ☎ 075-801-1760
滋賀営業所	滋賀県蒲生郡日野町大字奥之池559-2 〒529-1610 ☎ 0748-53-2231
奈良営業所	奈良市大宮町3-4-29 〒630-8115 ☎ 0742-36-3113
●広島支店	広島市中区橋本町10-10 〒730-0015 ☎ 082-222-7400
岡山営業所	岡山市北区田町1丁目12-11 〒700-0825 ☎ 086-224-7838
●九州支店	福岡市中央区天神4-2-20 〒810-0001 ☎ 092-711-1831
熊本営業所	熊本市中央区草葉町4-22 〒860-0843 ☎ 096-324-0329
沖縄営業所	那覇市銘苅3-23-24 〒900-0004 ☎ 098-867-4594
●国際支店	東京都江東区新砂1-1-1 〒136-8570 ☎ 03-6810-6223
●竹中技術研究所	千葉県印西市大塚1-5-1 〒270-1395 ☎ 0476-47-1700

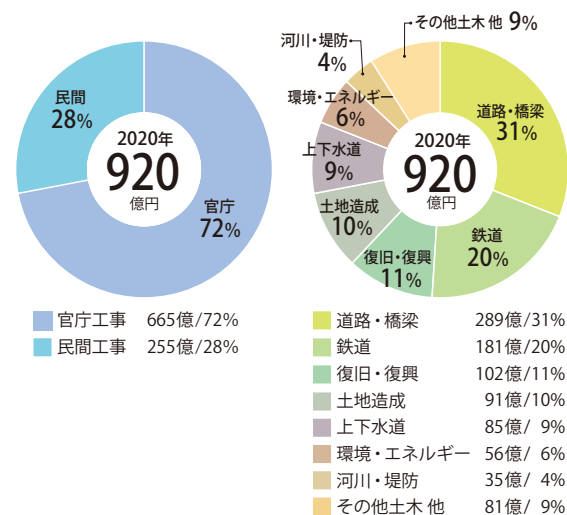
OVERSEAS OFFICE

●Philippine Branch Office	18th Floor, Tower 2, The Enterprise Center, 6766 Ayala Avenue cor. Paseo de Roxas, Makati City, 1200 Philippines TEL：+63-(0)2-7757-4781 FAX：+63-(0)2-7757-4786
---------------------------	--

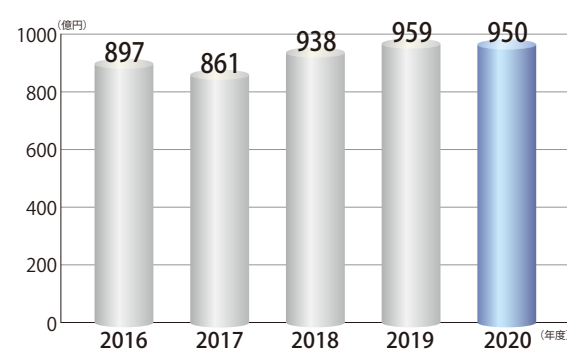
業績ハイライト



■受注高構成比



■売上高

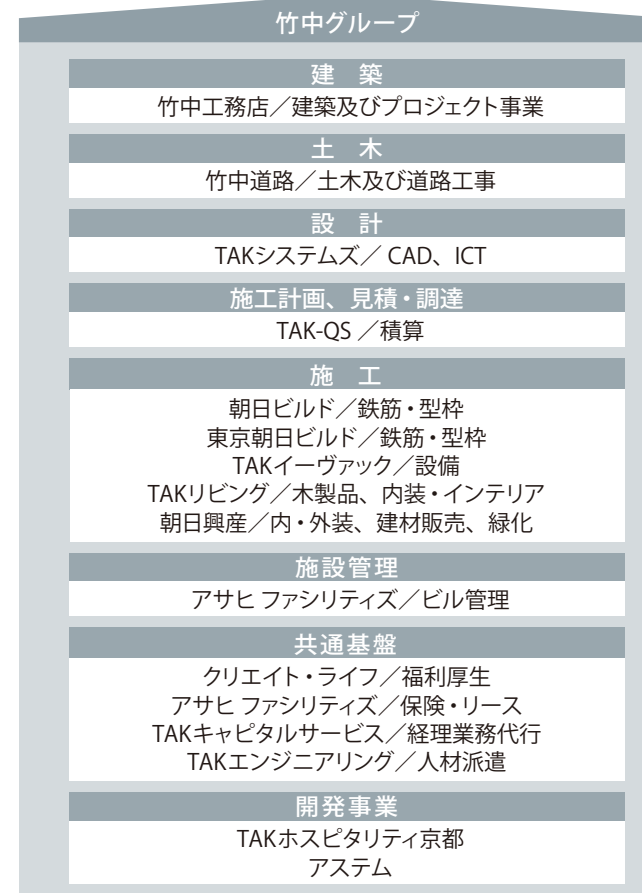


■当期純利益・純資産残高



竹中グループ〈各社の事業内容と主な活動〉

株式会社 竹中工務店	◆建設工事の請負並びに設計及び監理、不動産の開発・取引 等
株式会社 竹中道路	◆道路舗装工事及び舗装資材の製造・販売
株式会社 朝日ビルド	◆鉄筋工事及び型枠工事
株式会社 東京朝日ビルド	◆鉄筋工事及び型枠工事
株式会社 TAKイーヴァック	◆電気・給排水衛生・空調設備工事
株式会社 TAKリビング	◆木製品の製造・販売及び内装・インテリア工事
株式会社 朝日興産	◆内・外装工事を主とした工事、建設資材の販売、 造園、植樹、緑化の企画・施工
株式会社 アサヒ ファシリティズ	◆不動産の管理及び損害保険代理業務
株式会社 TAKシステムズ	◆建築の設計・施工に関するCAD業務並びにコンサルティング
株式会社 TAKエンジニアリング	◆建築工事に伴うエンジニアリング・マネジメント業務の受託、 人材派遣業務、人材紹介業務
株式会社 TAK-QS	◆建築工事に伴う積算業務の受託
株式会社 クリエイト・ライフ	◆従業員福利厚生及び総務・人事に関する総合業務受託
株式会社 TAKキャピタルサービス	◆グループ会社の電子債権業務並びに経理処理業務代行
株式会社 TAKホスピタリティ京都	◆「山荘京大和」「パークハイアット京都」の開発事業運営管理
株式会社 アステム	◆「芦屋浜高層住宅地区」の不動産賃貸・維持管理



当社のルーツは、日本の建設技術を海外で飛躍させることを目指し、1937年に竹中工務店と大手ゼネコン数社で構成された「匿名組合共栄会」です。東南アジアや中南米で多くの土木工事を施工しました。

1941年にその他ゼネコンが参加し、「海外土木興業株式会社」が設立され、初代取締役会長に当時の竹中工務店社長 竹中藤右衛門が就任しました。その後、竹中工務店が全株式を取得し、1946年に「朝日土木興業株式会社」に改称して竹中グループの土木会社となりました。(1973年 株式会社竹中土木に改称) 私たちはこれからも、竹中グループの一員としてお客様のニーズや社会の変化に柔軟に応えるソリューションの提供と作品創造を通じて、サステナブルなまちづくりに貢献しつづけていと思っています。

➔ 1975

1941年 1916
・海外土木興業株式会社 設立

1946年 1921
・朝日土木興業株式会社と改称

1960年 1935
・東海道新幹線「有楽町高架」施工



1963年 1938
・小型機械化シールド掘削機完成

1965年 1940
・名古屋市「栄町共同溝工事」をわが国初の「矩形シールド工法」により施工



1973年 1948
・株式会社竹中土木と改称

1974年 1949
・モンバサ国際空港(ケニア共和国)施工



1975年 1950
・DCM工法(深層混合処理工法)を開発

➔ 1985

1977年 1952
・沖縄・安波ダム施工
・中部ジャワ道路改良工事施工(インドネシア共和国)
・本州四国連絡橋「門崎高架橋」施工
・「横浜港大黒埠頭岸壁基礎地盤改良工事」をDCM工法で施工



1979年 1952
・DCM専用船「第三竹中号」完成
・DCM工法が第31回毎日工業技術賞受賞



1981年 1956
・わが国初のダムコンクリート圧送工法(PCD工法)を開発

1982年 1957
・「DCM6号船」完成

1984年 1959
・竹中式スラッシュ処理システム(TST)が業界初の環境庁長官賞を受賞
・ジャカルタ-メラク間高速道路工事施工
・ジャカルタ市内立体交差工事施工(インドネシア共和国)



1985年 1960
・シールド自動測量システム「ADAMS」を開発

➔ 1995

1986年 1961
・ジャカルタ駐在員事務所開設

1987年 1962
・ダム用自動式型枠工法を開発

1988年 1963
・新しい反力方式により推進するECL工法(PRES工法)を開発
・中国電力柳井火力発電所 護岸工事施工



1991年 193
・創立50周年を迎える
・インドネシア共和国にて現地法人設立

1992年 194
・耐震固化工法「TOFT工法」を開発
・名阪自動車道名古屋インターチェンジ施工



1993年 195
・河川浄化TRENDSシステムを開発
・「緑化コンクリート」を開発

1994年 196
・ジャカルタ中央鉄道高架化工事施工(インドネシア共和国)

1995年 197
・阪神淡路大震災で「TOFT工法」による液状化防止効果を立証



➔ 2000

1996年 198
・ケニアナイロビに駐在員事務所を開設
・タイ チョンブリ立体交差施工



・北陸新幹線 丸子トンネル施工



1997年 199
・東京湾横断道路 浮島トンネル施工



1998年 1910
・東名高速横浜青葉インターチェンジ施工



1999年 1911
・高品質再生粗骨材「サイクライト」の製造システムを開発



➔ 2005

2001年 1913
・長沢不二男会長が土木学会功績賞を受賞

2002年 1914
・「TOFT工法」が第4回国土技術開発賞受賞
・長島ダム施工



2003年 1915
・みなとみらい線 新高島駅施工



2004年 1916
・地盤改良技術「DCM-L工法」が建築技術性能証明を取得
・石神井川護岸改修工事施工



2005年 1917
・君津最終処分場(施工)が環境の先駆的取り組みを表彰するウェスティック大賞で環境大臣賞を受賞



➔ 2010

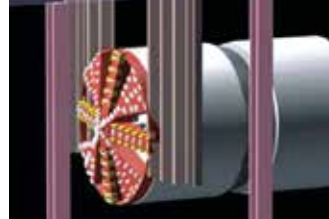
2006年 1918
・東北新幹線八甲田トンネル工事ほかで土木学会技術賞を受賞
・「DCM工法」に4軸機を投入



2008年 1920
・コーポレートメッセージ制定『人と地球の架け橋に』
・忠別ダム工事が土木学会技術賞を受賞



2009年 1921
・内径3500mmの切削シールドにより世界初の本格工事で鋼材切削除去成功



2010年 1922
・関西国際空港施工



・覆工コンクリートの養生システム「ひびないん養生システム」を開発、実証
・ルーマニア鉄道近代化工事施工



➔ 2015

2011年 1923
・インドネシアパトゥーハ地熱発電所施工



2012年 1924
・「クラコン養生管理システム」を開発
・「スマートコラム工法」を開発
・当別ダム施工(国内初の本格的CSGダム)



2013年 1925
・深層混合処理工法「DCM-L工法」で施工された地盤改良の施工品質を3次元で見える化する技術を開発、実証
・SMW工法や場所打ち杭などの鉛直精度管理システムを開発、実証
・「スマートコラム工法」実証試験を公開



2014年 1926
・「端末管事前撤去型AGF工法(AGF-Tk工法)」を開発
・岩手県大槌町震災がれき処理完了



2015年 1927
・竹中工務店とのJVで「エキスポランド跡地複合施設開発事業」竣工
・「四日市グリーンソーラーガーデン」完成 太陽光発電事業に参入



・「3次元開発設計支援システム」を開発
・「パイプクーリング制御システム」を開発

➔ 2020

2016年 1928
・創立75周年「2025年ビジョン」を発表



・マニラに「フィリピン支店」を開設
・清滝生駒道路 高山大橋交差点施工
・トンネル工事における発破音を低減する覆工コンクリート養生型吸音バレーンシステム『ノイズカットバレーン』を開発

2017年 1929
・盛土締固め試験作業の無人化に向けて自動RI試験ロボットを宇宙航空研究開発機構(JAXA)・竹中工務店と共同開発
・土木仮設構造物変状自動計測システム「Tメッシュネット」を大阪大学他と共同開発
・由良川相長川水門工事施工



2018年 1930
・L2地震(液状化)対応 広間隔格子状地盤改良工法を開発
・災害に強い新たな「まちづくり」石巻市新門脇地区震災復興業務



・補強鋼板運搬設置用ミニビュレータを開発
・大分川ダム施工
・厚生労働大臣より女性活躍推進法に基づく「えるぼし」認定を取得

・「トンネル切羽変状可視化システム」を神戸大学他と開発



・フィリピンマニラ地下鉄工事受注

2020年 192
・フィリピンバオ市バイパス建設事業を受注
・「既存住宅の住まいながら液状化対策工法」が第22回国土技術開発賞で「最優秀賞」

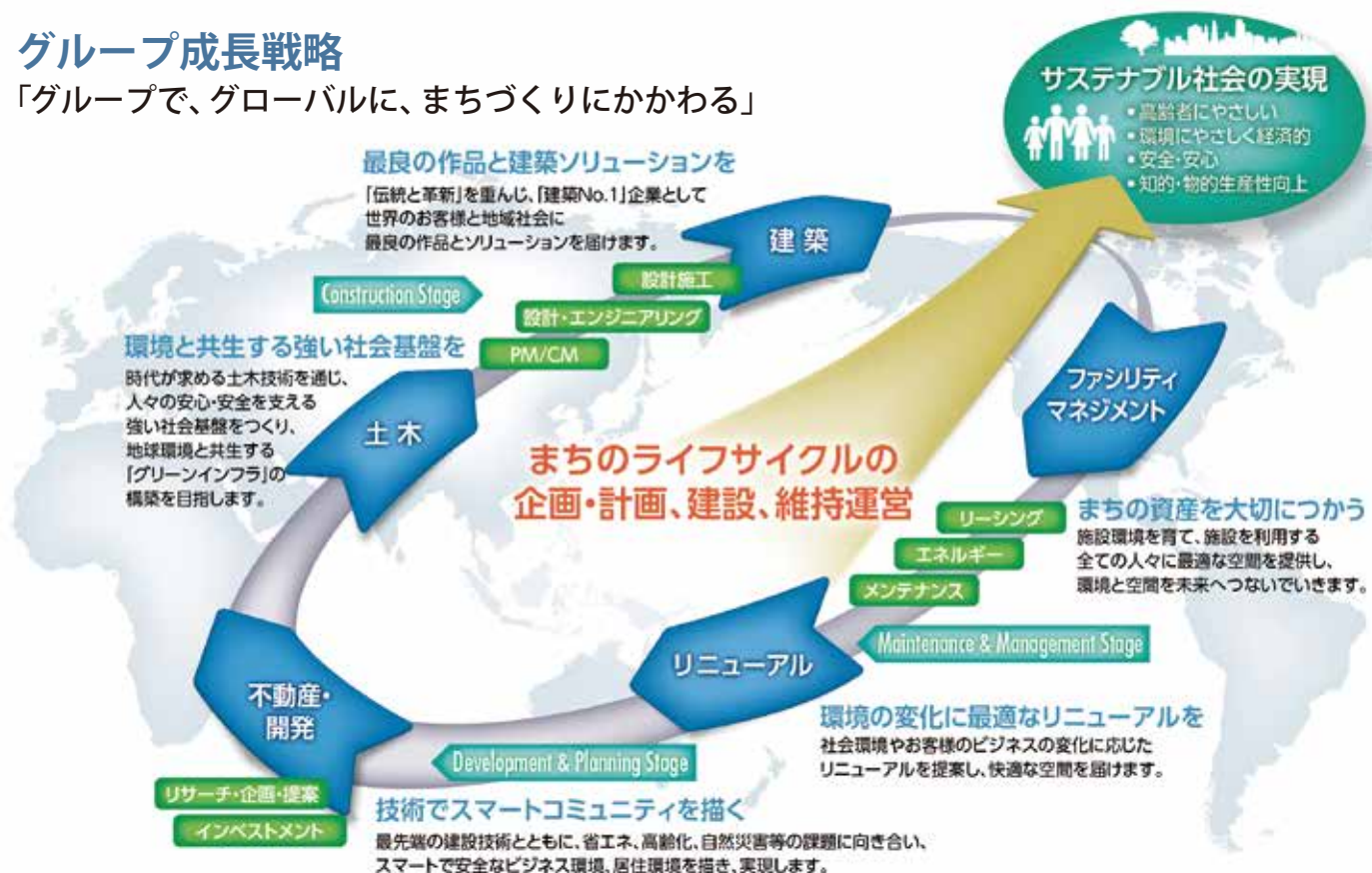


グループ一体となってサステナブル社会を実現します

私たち竹中グループは、ステークホルダーとの対話を続けながら技術の研鑽を重ね、建設技術とサービスが融合した新しいソリューションで「まち」に新たな価値を提供します。そして、社会やお客様にとって最良のパートナーとなることで持続的な成長を目指していきます。

グループ成長戦略

「グループで、グローバルに、まちづくりにかかわる」

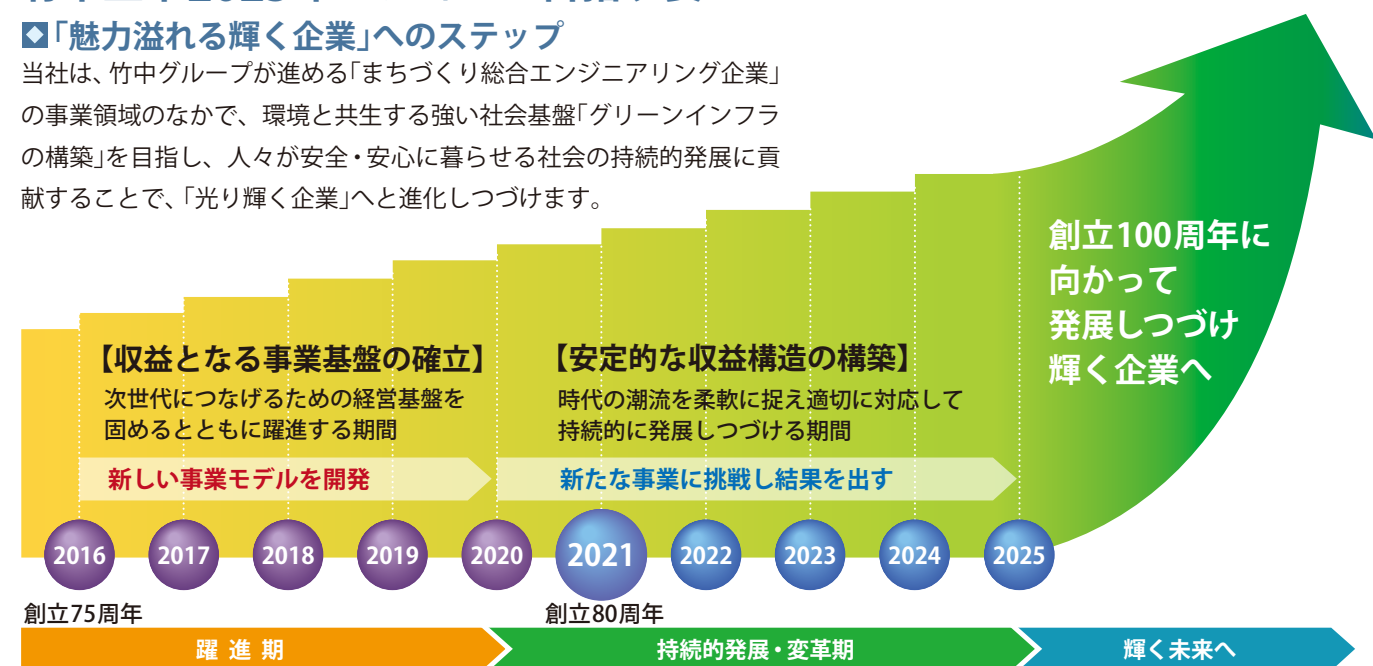


2016年当社は、社会環境に適合しながら持続的に発展するために「2025年ビジョン」を策定…時代が求める土木技術を通じて人々の安全・安心を支える「強い社会基盤」をつくるとともに地球環境と共生する「グリーンインフラの構築」を目指しています。私たちは、グループ全体で社会的価値を創造する「まちづくり総合エンジニアリング企業」の一翼を担い安全・安心な社会の持続的発展に貢献しつつけることで着実なステップアップを図りステークホルダーとともに「輝く未来」へつなげていきたいと考えています。

竹中土木2025年ビジョンの目指す姿

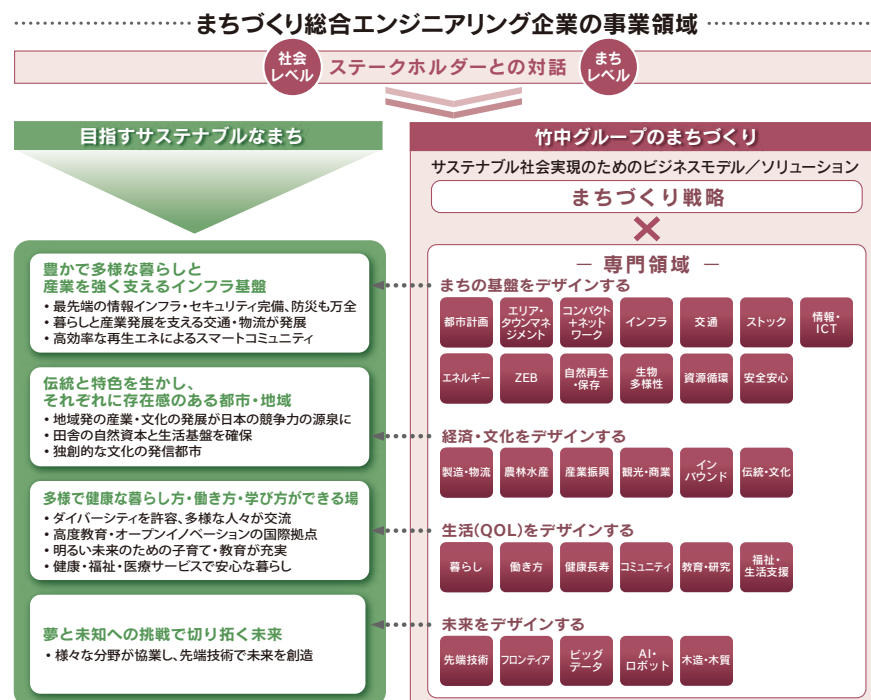
◆「魅力溢れる輝く企業」へのステップ

当社は、竹中グループが進める「まちづくり総合エンジニアリング企業」の事業領域のなかで、環境と共生する強い社会基盤「グリーンインフラの構築」を目指し、人々が安全・安心に暮らせる社会の持続的発展に貢献することで、「光り輝く企業」へと進化しつづけます。



◆目指すサステナブル社会と「まちづくり」の推進

竹中グループは、建設事業を中核としてさらに進化をとげ、「まちの基盤」、「経済・文化」、「生活(QOL)」、「未来」のデザインを行い、建設事業に新たなソリューションをもたらすとともに、建設事業との相乗効果により新規事業を含むサービス事業などのビジネスモデルで社会に価値を提供する「まちづくり総合エンジニアリング企業」としての取り組みを加速させます。そのために、竹中らしさである伝統と革新を重んじ、グローバルな視点を持ちつつ、ステークホルダーとの対話を深めることで共有価値を創造し、地域社会の動向を踏まえた戦略を策定してまちづくりに貢献していきます。



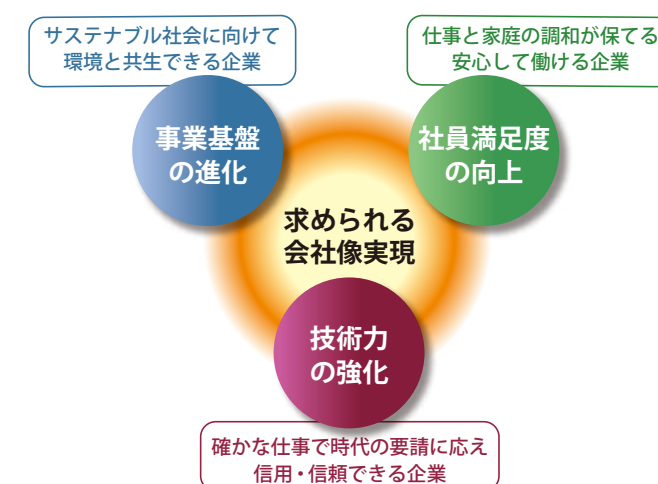
◆私たちの目指すグリーンインフラ

当社は、サステナブル社会の実現に向けて環境と共生する強い社会基盤…「グリーンインフラ」への挑戦を加速させます。従来の「壊して・つくる」フロー消費型社会で培ってきた高度な土木技術を、多様化・高度化する社会のニーズに適應できるよう進化させ、「良いものをつくり」…「手入れして(強靱化)」…「長く大切に使う」…ストック型社会の実現に寄与したいと考えています。



◆ビジョン達成に向けて…

私たちは、グループ成長戦略のもとで独自性に磨きをかけ、「事業基盤の進化」「社員満足度の向上」「技術力の強化」を実践しながら、社会や社員から求められる会社像の実現に向けて、堅実にステップアップしていきます。





太陽光発電所建設工事のUAV写真測量(宮城県)

UAV写真測量を基にした3次元測量データ



高速道路建設工事に導入されたICT重機(徳島県)



Feature-1
働き方を変える「生産性革新」

将来に亘って建設業の持続可能性を維持していくには、建設技能労働者の減少への対応やワークライフバランスの向上を図っていくことが喫緊の課題となっています。そのためには、設計から施工に至るプロセス全体を変革し、CIMやICT、AIやロボティクスなどの先端技術を取り込んで、生産性を飛躍的に向上させていく必要があります。私たちは、竹中グループ連携&設計施工一貫体制のメリットを最大限に生かしプロセス全体の生産性向上を加速させています。

CIM (Construction Information Modeling) : 調査設計段階から3次元モデルを導入し、施工段階まで連携・発展させて業務の効率化や高度化を目指した取り組み。
ICT (Information and Communication Technology) : 情報通信技術

調査・起工段階からの「生産情報」の取り込み

当社は、工事の調査・起工段階からUAV写真測量やレーザースキャナ測量を行なって現況の地形等を正確に把握。この測量データと発注図面を比較しながら精度の高い設計・施工案を早期に提示します。さらに、工法や設計図面などの生産情報を取り込んだ「3次元設計データ」を作成し、日々の施工管理に活用することで生産性の向上を図るとともに、安全と品質の確保、省人化の推進、環境負荷の低減などを行っています。

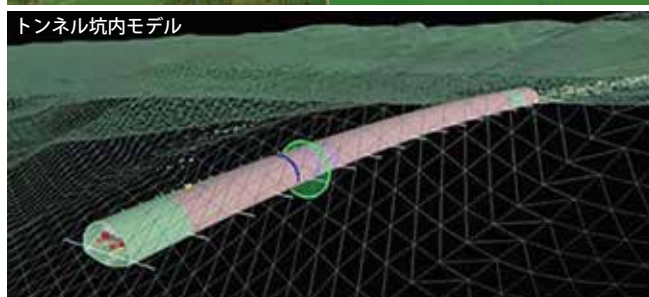
UAV (Unmanned Aerial Vehicle) : 無人航空機

❖ CIMを活用した施工計画の立案

トンネル坑門部モデル



トンネル坑内モデル



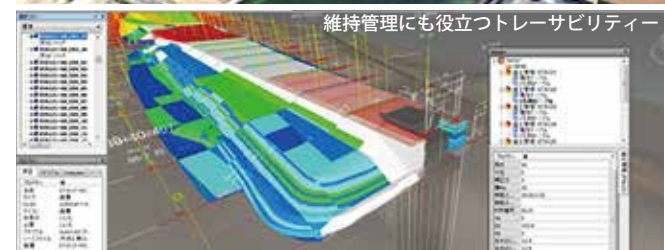
福島県のトンネル工事では、CIMを用いてトンネル坑門部や坑内のモデルを作成して「実態に即した施工計画」を立案。モデルを視覚的に確認しながら施工することで生産性が向上するとともに「安全で高品質な施工」につながります。

❖ CIMを活用して完成形を可視化

徳島県の高速道路工事では、CIMを用いて3Dモデルによる完成形の可視化(見える化)を実施。これにより、着工前はお客様との合意形成に役立てて「高品質を保った施工」が可能となるうえ、施工後は複雑なトレーサビリティを整理することによってお客様の維持管理にも役立ちます。



盛土工事完成形の3Dモデル



維持管理にも役立つトレーサビリティ

施工現場への「ICT」の展開

GNSS (Global Navigation Satellite System) : 全地球測位衛星システム

当社は、全国各地の施工現場に最先端の「ICT」を導入し実績を上げています。UAV測量やGNSS-3次元測量・レーザースキャナ測量などを使った「3次元測量データ」を日々の施工や出来形管理に活用して業務を大幅に効率化。さらに、3次元マシンガイダンス・バックホウや3次元マシンコントロール・ブルドーザなど、最先端の「ICT建設機械」を導入して人力による作業を大幅に削減…生産性向上による工程の短縮や労働時間の縮減で「ワークライフバランス」の充実を図っています。



❖ ICTの全社展開に向けて

作業所業務のさらなる効率化・省人化による「生産性向上」を目的として、本社技術・生産本部に「ICT推進グループ」を設置。2019年よりICTの「早期全社展開」を図っています。

●若手社員へのICT講習

ICT活用の利点を広く社員に知ってもらうため、新入社員の研修現場やオンサイトミーティング等に出向き、UAV写真測量等に活用できるUAVのデモ飛行やGNSS測量機器のデモ活動を行っています。新入社員のみならず幅広い世代の社員に向けて「ICT活用による業務の効率化」を実際に体感してもらうなかで、働き方改革や生産性向上への意識を啓蒙しています。

●ICT研修生制度

ICTの全国展開を早期に実現するために「ICT研修」を制度化…各本支店におけるICT普及の核となる人材の育成を図っています。半年間の研修後は、習得した技術・知見を各本支店に持ち帰り、作業所での普及活動に努めています。





「働き方改革」に取り組み魅力ある会社へ…

少子高齢化が進展する中で、国が掲げる「一億総活躍社会」の実現に向けた「働き方改革」の取り組みが加速しています。当社が推進する「働き方改革」は、生産性向上に向けて対策を講じるとともに、職場環境の充実を図りつつ「全従業員が働きやすい環境で心身ともに健康で働き最大限の能力を発揮できる」ことを目指しています。また、2007年から継続している経営トップと語らう『オンサイトミーティング』を通じて、社員の想いを反映しながら「ワークライフバランスの向上」や「ワークプレイスの改善」に継続して取り組んでいます。私たちは、ステークホルダーや社会からの共感と信頼を得ながら「新しい働き方」への改革を加速させ、魅力ある総合建設会社として持続的に発展していきたいと考えています。



社員が「想い」を述べる「オンサイトミーティング」

私たちが目指す「魅力ある働き方」



業務プロセスの改善と生産性向上

事業所・作業所におけるタブレット端末活用や「ICT」の積極的な展開に加え、外部の専門家を活用しながら仕事を進める手順や手法を多面的に検証。無駄の削減など業務プロセスの改善に取り組んで生産性向上に務めています。また、各々の作業所が取り組んだ「より良い事例」を全社的に展開し、従業員の誰もが働きやすい環境を創造しながら「魅力ある企業」を目指して挑んでいます。

ワークライフバランス

会社を支える従業員の誰もがやりがいをもって健康に働き、充実した生活を送れるよう、意見交換を行いながら「ワークライフバランス」の向上に取り組んでいます。従業員が個々のライフイベントを大切に、仕事と生活の調和が図れるよう「労働時間の削減」を推進。育児・介護に関わる「従業員支援制度」を一層充実させ、心身ともに健康で安心して業務に打ち込むことができる環境整備を進めています。また、週休2日(4週8閉所)の早期実現に向け、仕事を進める手順や手法を見直すとともに、「働き方」への意識改革にも取り組んでいます。

多様な働き方を目指して

子育てや介護を支援する「時短勤務」や「スライド出勤」はもとより、不測の事態が起きても業務を継続できるよう「テレワーク」や「リモート会議」などを推進しています。また、従業員の声に耳を傾けながら、誰もが納得してやりがいを抱ける「多様な働き方」に継続して取り組んでいます。



テレワーク

リモート会議

ワークプレイスの改善

竹中グループは、既成の価値観にとらわれない柔軟な「新しい働き方」にチャレンジしています。竹中技術研究所は、Creation「一人ひとりの創造性が高まる環境へ」Innovation「オープンイノベーションを促進する環境へ」をコンセプトに、既成概念にとらわれないゾーニング・空間設計と最新の建築・設備・情報技術を適用…「新価値創造力の向上」を目指して新しい研究所へと生まれ変わりました。

❖ 作業所のフリーアドレス化

横浜青葉IC作業所では、従来の形式にとらわれないワークプレイスとして「フリーアドレス」を採用。時代に即した新たな働き方を模索しています。

❖ 柏寮・瀬戸寮のサテライトオフィス化

事業継続計画『BCP』に基づく緊急時のリスク管理の一環として、当社社員寮(千葉県柏市・愛知県瀬戸市)をサテライトオフィスとして活用。大規模災害時・非常事態時においても事業継続が可能となる取り組みを進めています。



竹中技術研究所：多様な空間・環境を積極的に導入したワークスペース



フリーアドレスを採用した作業所事務所



柏寮のサテライトオフィス

ダイバーシティの推進

当社は、性別・国籍・年齢などに関わらず、多様な人材の誰もが働きやすい環境の構築を目指して、ダイバーシティ・マネジメントを推進しています。

❖ 女性にとって働きやすい職場へ

女性社員の就業継続とキャリアサポートに焦点を当てたダイアログ等を通じて「女性活躍推進」を加速させています。また、年々増加する女性技術者にとって「快適に働ける職場」を整備するために、2017年より作業所等の「女性パトロール」を実施。女性目線からの意見を労働環境の改善に取り入れています。



現場で活躍する女性技術者

女性パトロール(現場)

女性パトロール(機材センター)

「土木」を志した初心を忘れずに一歩ずつ…



作業所に従事する神宮司さん

現在は、土壌・地下水対策の担当として大阪本店の作業所に赴任。関東出身の私にとって初めての大阪暮らしは戸惑うこともありましたがとても楽しく過ごしています。このまま土壌の道を進むのか…現場で「土木」のスキルを磨くのか…気持ちは固まっていますが、いずれにしてもチャンスがあれば後世に遺る「土木構造物」の現場に携わってみたいです。『未来の社会をかたちづくる夢のある仕事』…そんな土木のものづくりを志した初心を忘れずに、一步一步キャリアを積み重ねていけたらと思っています。



東京本店 / 工事部
土壌環境グループ
神宮司 早織さん
(2017年入社)

台風や大雨による自然災害が激甚化する昨今…
災害に負けない「強い国土」への期待は高まる一方です。
土木を専門とする当社は、想いを込めて大地と向き合い
強くしなやかな国土に向けて「地盤改良技術」を追求…
将来に亘って「安全・安心な社会」を支えつづけます。

DCM工法による護岸の地盤改良(東京都)

高速道路盛土工事における地盤改良(徳島県)

強い国土を支える「地盤改良技術」

1975年に当社が開発した「深層混合処理工法(DCM工法)」は、海底や河川などの軟弱地盤にスラリー状のセメント系固材を添加・混合して地盤を強固に改良する技術で、DCM専用船による海底地盤の改良工事で、東京湾横断道川崎人工島工事(1990年)、関西国際空港Ⅱ期工事(2000年)、東京国際空港D滑走路(2007年)など数多くの実績を遺してきました。その後、海底・河川だけでなく建築工事における軟弱地盤の改良や地盤の液状化防止など陸上工事のニーズが高いことから、1981年に「DCM-L工法」へと発展。土木工事のみならず、建築構造物の基礎工事などにも数多く適用され、2004年には(財)日本建築総合試験所から「建築技術性能証明」を取得。軟弱地盤の支持力増強や地震時の液状化対策において、コストや工期に貢献する「安全で信頼性の高い地盤改良工法」として広く認知されています。海底・河川から陸上へと進化した地盤改良技術「DCM工法」は発展を続け、山留を用いずに掘削する「DCMオープンカット工法(DOC工法)」や軟弱な地盤を格子状に囲んで地盤改良する液状化対策技術「TOFT工法」、「DCM-L工法」による改良体で遮水壁を構築して汚染土壌を封じ込める技術、住宅地など狭隘な施工条件下での液状化対策技術「スマートコラム工法」など様々な技術に応用されています。

- | | |
|-------|---|
| 1975年 | ・DCM工法(深層混合処理工法)を開発 |
| 1979年 | ・DCM工法が第31回毎日工業技術賞を受賞 |
| 1990年 | ・大規模オープンカット工法「DOC工法」を開発 |
| 1992年 | ・耐震固化工法「TOFT工法」を開発 |
| 1995年 | ・阪神淡路大震災の地盤沈下被害の中で「TOFT工法による液状化防止効果」を立証
※写真は神戸港中突堤で液状化被害を免れたホテル |
| 2002年 | ・地盤改良処理機の建入れ精度制御システム「パペット工法」を開発 |
| 2004年 | ・TOFT工法が第4回国土技術開発賞を受賞 |
| 2006年 | ・DCM-L工法が『建築技術性能証明』を取得 |
| 2011年 | ・DCM-L工法が『土壌汚染封じ込め性能証明』を認証 |
| 2013年 | ・DCM-L工法で施工された地盤改良の施工品質を3次元で見える化する技術を開発・実証
・宅地の液状化対策技術「スマートコラム工法」を千葉県浦安市で実証・公開 |
| 2015年 | ・スマートコラム工法が地盤工学会関東支部技術賞受賞 |
| 2019年 | ・DCM-L工法が『建築技術審査証明』を改定設計基準強度5,000kN/m ² に対応 |
| 2020年 | ・「既存住宅の住まいながら液状化対策工法」が第22回「国土技術開発賞」最優秀賞を受賞 |



国土技術開発賞で「最優秀賞」

東日本大震災に伴い浦安市などの戸建て住宅地で深刻な液状化被害が発生…恒久対策が望まれるなか、当社及びケミカルグラウト(株)は、家屋に住民が居住したままで地盤改良施工が可能な「既存住宅の住まいながら液状化対策工法」を開発…第22回 国土技術開発賞で『最優秀賞』を受賞しました。

開発技術の特徴

- ・複雑な地盤条件に対応する新しい設計法(疑似3次元解析)
- ・「小型機械攪拌式スマートコラム工法」により6m幅程度の街路における効率的施工を実現
- ・「超小型高圧噴射攪拌式エコタイト工法」により住宅間の超狭所施工(幅80cmの隙間)を実現



既存住宅の住まいながら液状化対策工法



技術開発で災害に強い社会インフラに貢献

戸建て住宅地における液状化対策という類を見ない課題に対し、当社が得意とする格子状地盤改良技術の展開で解決に少しでも貢献できたこと…大変嬉しく思います。激甚災害が日常化しつつある昨今、引き続き本技術の適



用範囲拡大やインフラ構造物の耐震補強ニーズへの技術開発に努め、災害に対して粘り強い社会インフラの構築に寄与できるよう精進していきたいと思っています。
技術・生産本部/技術開発部長
小西 一生さん
(1990年入社)



DCM船による海底の地盤改良(東京都)



高速道路高架橋工事における地盤改良(岐阜県)



DCM-L工法による港湾法に基づく臨港道路の地盤改良(三重県)



河川堤防復旧工事における地盤改良(岩手県)



TOFT工法による建築構造物基礎の地盤改良(大阪府)



住宅地の液状化対策(千葉県)

新幹線や高速道路など速くて安全・快適な交通網は現代の社会生活に欠かすことのできない存在です。当社は、北陸新幹線・北海道新幹線・リニア中央新幹線や新東名高速道路など社会を便利につなぐ「交通インフラ」の整備を通じて人々の快適な暮らしを未来へとつなげていきます。

社会に役立つ土木で“誇れる仕事”を…

今回で3度目の新幹線工事ですが、高速道路・インターチェンジ内を交差して新幹線高架橋を築造するという難しい工事。高さ20mを超えるラーメン高架橋、RC橋脚と高速道路盛土法面近接のため鋼管矢板土留めを設置し、アーバンリング工法を用いた橋脚基礎工事を実施しました。また、全工事区間(1,416m)の内400mをラーメン高架橋からPC桁構造に変更され、工期の短縮を実現しています。若手が前面に立って奮闘する工事は今が最盛期…高所作業が続きますので最後まで気を引き締めて安全を最優先



に品質を確保。我々が施工した作品は将来にわたり社会的な土木構造物として人々に使用される…そんな仕事に従事できることに感謝しつつ“誇れる仕事”をやり遂げたいですね。

作業所長
木村 憲太郎さん
(1990年入社)

北陸新幹線 武生橋りょう(福井県)

発注者：鉄道建設・運輸施設整備支援機構 大阪支社
工事内容：工事延長L=1,416m、場所打ち杭 224本、深礎杭基礎 7基
RC橋脚26基、ラーメン高架橋7連、現場打ちCt桁 12連、路盤工、PC上部工 5m~45m 17径間、他一式



日本平久能山スマートインターチェンジ(静岡県)

発注者：中日本高速道路株式会社 東京支社
工事内容：切盛土工 約100,000m³、のり面工、用・排水工、カルバート工、推進工 C-BOX非開削(SFT工法) □7250×9300、橋梁(基礎工・下部工・上部工)、他一式



難関克服の道程で実感した“土木の醍醐味”

供用中の東名高速道路に新たなスマートインターチェンジを構築するという難工事と対峙して5年…中でも最難関とされた東名直下の“函体推進による貫通”は間違いなく土木屋人生のハイライト！幾多の難題を発注者や作業所メンバー・名古屋支店の技術G・本社技術スタッフ・協力会社の尽力によって一つひとつ解決…関わった皆さんの“努力の結晶が形になったもの”と心より感謝しています。経験工学といわれる土木の世界…本現場では工事経験豊かな上司や先輩方に支えていただき、本当に心強かった…。



また、「全員が一つの目標に向かって協力すること」の素晴らしさと楽しさ&その結果の凄さを実感。今後も、そんな“土木の醍醐味”を多くの方々と共有していきたいですね(笑)。

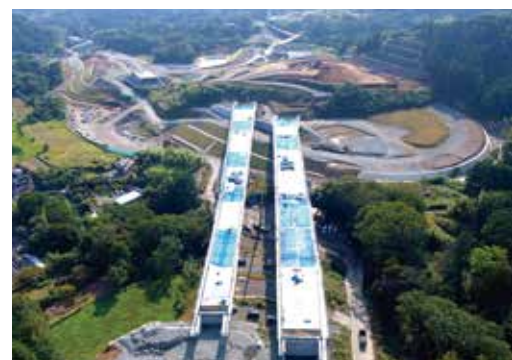
作業所長
井本 優さん
(2002年入社)



北陸新幹線 丸岡春江高架橋(福井県)



北陸新幹線 敦賀駅高架橋(福井県)



新東名高速道路 秦野インターチェンジ(神奈川県)



新東名高速道路 葛葉川橋下部工(神奈川県)



北陸自動車道 上市スマートインターチェンジ(富山)



四国横断自動車道 旭野(徳島)

社会インフラを支える「トンネル」 快適で安全な社会を見据えて…

人々の暮らしを支える道路や鉄道に欠くことのできないトンネル…
ノミと槌で掘られた「青の洞門」を祖とする日本のトンネル技術は
近代化とともに「NATM」や「シールド工法」へと発展
「社会インフラ」を支える要として進化をつづけています。

東北中央自動車道 上保原トンネル(福島県)

発注者：国土交通省 東北地方整備局
工事内容：トンネル工事延長 L=303.4m
インバート工、道路土工、法面工、坑門工、
橋梁下部工(地盤改良工、場所打杭工、橋台躯体工)、他一式



社会に貢献する土木で常に「誇れる仕事」を！

東北中央自動車道 相馬福島道路上保原トンネル工事は、
常磐自動車道と東北自動車道を結ぶ自動車専用道路の整備
によって被災地と内陸部の連携を強化…東日本大震災
からの早期復興を図る「リーディングプロジェクト」と位
置づけられています。

トンネル掘削工事では、「小土被り区間」で常に崩落の危
険が伴うため「トンネル切羽変状可視化システム」などICT
を活用した安全性＆生産性を向上させる新技術を導入…
トンネル掘進=約50m/月という難工事となりましたが、



12月に無事竣工。地域
からも期待される新た
な交通ネットワークづ
くりへ寄与できた今の
想いを忘れずにこれか
ら業務に邁進…常に
“誇れる仕事”を続けて
いきたいと思ひます。

監理技術者
菅野 優二さん
(2015年入社)

熊本市池上工区1号トンネル(熊本県)

発注者：熊本市
工事内容：工事延長 962m、トンネル延長 L=872.1m(NATM)
掘削支保工、覆工防水工、インバート工、坑門工、掘削補助工、
道路改良(擁壁工、橋台工、工事用道路工)、他一式



上司のフォローと後輩の頑張りに助けられて…

熊本市の“交通渋滞緩和”を目的とする熊本西環状道路の
工事。施工場所が比較的街中に近いトンネル工事で初め
ての現場代理人…当初は狭小地の仮設ヤード造成や進入
道路工事でも厳しい状況。また、夜間の発破への苦情には、
時間制約や薬量制限を実施…さらに毎日“近隣住民への聞
き取り”を行なうなどコミュニケーションを深めながら工
事を進めました。経験の少ない発注者との折衝や地元住
民の苦情対応などに苦労はありましたが、上司の適切な
フォローと後輩職員の頑張りに助けられ…感謝あるのみ。



今後も“トンネル貫通
時の感激”を忘れずに
工期遵守で竣工を目指
すとともに、諸先輩の
技術や知恵を吸収しな
がらスキルを磨き、地
域や会社へ還元してい
けたらと考えています。

現場代理人
山本 隆士さん
(2007年入社)



北陸新幹線 第2福井トンネル(福井県)



中部横断自動車道 東根熊トンネル(山梨県)



常磐自動車道 大久トンネル(福島県)



中部横断自動車道 城山トンネル(山梨県)



東京外環本線シールドトンネル 大泉南(東京都)



都市ガス用シールドトンネル(茨城県)

地球規模の気候変動により自然災害が猛威を振るう近年
人々が快適に暮らせる「安全・安心な社会」が求められています。
当社は、ダムをはじめ河川の堤防・水門や下水道の整備に取り組み
土木の知恵と技術で安全・安心な暮らしを守ります。

現場の経験と知識を次の世代につなげる…

小石原川ダムは、堤体積870万m³の大規模ロックフィルダムで堤高139mは“九州一”の高さを誇ります。
施工においては、3年続けて豪雨災害に見舞われたにも関わらず、JV作業所が一丸となって870万m³の堤体盛り立てを20.6ヵ月という期間で見事達成しました。
計画段階の「3D-CADを用いたダム全体の3Dモデル構築」をはじめ、GNSS測量・マシンガイダンスシステム・マシンコントロールシステムなど“ICT”を駆使。最盛期には1,000人以上が従事し“昼夜通しての突貫体制”…若い職員



たちの苦心・苦労は大きかったと思いますが、仲間とともに力を結集してこれだけ大規模な工事を成し遂げたことに誇りを持って、次に活かして欲しいですね…期待しています。

作業所長
石松 宗一郎さん
(2001年入社)

小石原川ダム(福岡県)

発注者：独立行政法人 水資源機構
規模：中央コア型ロックフィルダム
堤高139m、堤頂長550m、堤体積8,700,000m³
集水面積20.5km²、総貯水容量約4,000万m³



盛川筋塩場地区河川災害復旧(岩手県)

発注者：岩手県
規模：施工延長L=2,358m、盛川防潮堤(築堤護岸)L=891m、市道付替(右岸線)L=284m、(川口橋線)L=466m、旧橋撤去L=157m、普金地区防潮堤L=560m 他一式



重責をやりがいに…地元の期待に応えたい！

岩手県大船渡市で盛川の「堤防嵩上げ」「新設された橋兩岸の道路接続及び旧橋の撤去」「海岸防潮堤の築造」が複合された河川災害復旧工事に携わって約4年…地元の期待も大きい河川工事で深層混合処理による地盤改良など多様な工種を経験。現在は監理技術者として工事の工程管理及び施工計画を担うとともに施工に際する関係各所との調整・協議に励んでいます。正直、経験不足を感じる場面はありますが、人一倍の経験が積める“責任ある職務”を与えられたことに感謝…プレッシャーをやりがいに変え



て精一杯頑張りたいです。年明けから防潮堤築造工事が最盛期…最後まで気を抜かず品質確保&安全第一で竣工を迎え、作業所メンバーや地元の方々と喜びあえたら嬉しいですね。

監理技術者
久光 浩基さん
(2015年入社)



大分川ダム(大分県)



成瀬ダム(秋田県)



宮古仲原地下ダム-箕津西部(沖縄県)



大船渡港跡浜地区海岸防潮堤(岩手県)



青野沢川河川堤防整備(宮城県)



由良川相長川水門(京都府)

環境と共生するサステナブル社会の実現に向けて
クリーンエネルギーや廃棄物処分場整備への期待が高まっています。
当社は、人と環境に優しい「グリーンインフラ」の構築を目指し
持続可能な「ストック型社会」に向けた取り組みを加速させています。

宮城大郷ソーラーパーク（宮城県）

発注者：宮城大郷ソーラーパーク合同会社（トタル・東北電力・SBエナジー）
工事内容：開発面積69.8ha、発電出力37.5 MW
土工：切土工1,545,000m³ 盛土工1,378,000m³
架台設置2,415基、パネル設置115,920枚、他一式

“若いチカラ”を結集して最良の結果を…

宮城大郷ソーラーパークは、発電出力37.5 MWを想定する太陽光発電所。ICT建機を活用した大規模造成（開発面積69.8ha）を主体に架台＆パネル設置までを施工するものです。作業員数が150人/日を超えることも多いので現場全体のコントロール＆工程管理は大変ですが、経験豊富な上司とやる気のある優秀なメンバーに囲まれ…日々刺激を受けながら楽しく仕事が出来ています。

また、事業者が海外の企業なので施工計画書は全て英語に翻訳して提出。「現場内のルール」も通常とは違うので

戸惑うこともありますが、品質・安全と働き改革を確保しながらの工期厳守が“必達目標”。お客様に満足頂くとともに、総ての面で最良の結果を残して終わられるよう頑張ります。

監理技術者
川島 諒介さん
〈2012年入社〉



君津環境整備センター第Ⅲ期（千葉県）

発注者：新井総合施設株式会社
工事内容：土工：切土工2,418,000m³、盛土工2,398,000m³、
貯留構造物（2箇所）33,600m³、調整池堰堤（3箇所）10,940m³
遮水工103,200m²、法面保護工45,590m²、他一式



地球環境を見据え未来に繋がる取り組みを…

当工事は、Ⅰ期・Ⅱ期から継続して当社が全てに関わって施工するもので、先端技術により環境インフラを支える事業はサステナブル社会に繋がるものと自負しています。若手主体で経験者も少ないため、部分竣工に向けた工程管理に苦慮。品質管理は専門の協力会社の力を借りて行なっています。また、大自然に囲まれた地域ゆえ天候に左右される工事…一昨年の台風災害復旧以来“地域防災”に貢献しつつ地元の方々と良好な関係を維持しています。ICTを活用した大規模土工事はこれからが最盛期…若い人

達には土木技術の継承はもとより“環境ソリューション関連事業”に携わった今回の経験を活かして…“地球環境を見据えた未来に繋がる取り組み”を模索して欲しいですね。

作業所長
茂呂 達明さん
〈1991年入社〉



ユーラス大豊ウインドファーム（高知県）



是川太陽光発電所（青森県）



防府バイオマス・石炭混焼発電所（山口県）



名古屋市広川ポンプ所（愛知県）



湯河原町真鶴町一般廃棄物最終処分場（神奈川県）



大熊町除染土壌等中間貯蔵施設（福島県）

社会環境の変化に適応した「土地の有効活用」や「既存インフラの長寿命化」へのニーズが高まっています。当社は、「まちづくり総合エンジニアリング企業」を目指す竹中グループの一翼を担い環境と共生する強い社会基盤の構築&魅力的なまちづくりに取り組み社会の持続的発展に貢献しつつあります。

伊達市高子駅北地区土地区画整理事業(福島県)

発注者：伊達市高子駅北地区土地区画整理組合
工事内容：施工面積：14.1ha、計画戸数：約217戸
切土工 32,900m³、盛土工 180,800m³、道路工 4,648m、他一式



“魅力的なまちづくり”を次世代へとつなぐ

本工事は、パナソニックホームズ・東日本総合計画・当社による“業務代行方式”の土地区画整理事業で、当社が造成工事全般を担当するものです。

2018年10月の工事着手から早2年…関係機関や地権者等と協議・調整を重ね、相互理解を深めながらの施工は大きな苦情もなく概ね順調。但し、施工地が旧阿武隈川流域の軟弱地盤のため、「地盤強度の増加」を狙って圧密沈下を事前に促進させる「プレロード盛土」を行いました。

若いメンバーは皆やる気があって頼もしい限り…「想いを

かたちに」できれば自信が付くと思いますよ。将来像をイメージした「魅力的なまちづくり」を通じて、次代を担う若い職員に区画整理事業のノウハウをつなげていきたいですね(笑)。

作業所長
橋本 隆さん
(1989年入社)



東名横浜青葉インターチェンジ耐震補強(神奈川県)

発注者：中日本高速道路株式会社
工事内容：鋼製橋脚：短冊補強、補強リブ、角溶接部補強、中詰コンクリート
RC橋脚：連続繊維シート、鋼構造物の詳細設計 他一式



ステークホルダーから信頼される技術者に…

今回の高速道路橋脚・橋台の耐震補強は、経験のない「鋼製橋脚の補強工事」に加えて詳細設計も当社で行うもの…施工管理方法の確立や詳細設計業務の知識の習得、設計変更ノウハウの蓄積はもとより、発注者からの評価においても成果をあげ、これからさらに増えるであろう「補強・リニューアル工事」の継続につなげたいと思っています。監理技術者として、発注者対応や関係各所との協議&施工計画の立案などに忙しい日々ですが、工事はこれからが佳境…何より安全第一で施工&お客様から満足頂ける

品質での竣工が当面の目標。より良い作品づくりのために“PDCA”を継続しながら進化を続けて社会に貢献…多くのステークホルダーから信頼される土木技術者を目指したいですね。

監理技術者
長末 暁侑さん
(2010年入社)



石巻市新門脇地区の震災復興まちづくり(宮城県)



那覇広域都市計画事業・アワセ土地区画整理事業(沖縄県)



東豊中開発・宅地造成(大阪府)



大阪地下鉄2・5号線耐震補強(大阪府)



綾瀬川護岸耐震補強(東京都)



首都高速道路(永福)上部工補強(東京都)

1941年設立の海外土木興業(株)をルーツとする当社の海外事業は、開発途上国の社会インフラ整備を通じて経済発展に大きく貢献。現在は、フィリピン支店を中核として事業展開を図るとともに新規市場を視野にグローバル人材の育成にも力を注いでいます。

ヌサトゥンガラ給水(インドネシア)

ニアス島橋りょう復旧(インドネシア)

パワカラエン砂防ダム(インドネシア)

国際支店の事業活動

2025年ビジョン達成に向けた海外戦略の一環として、2016年に首都マニラに「フィリピン支店」を開設。ODA案件を中心に営業活動を進めています。

フィリピンを新たな海外事業の拠点として…

当社の海外事業は、1997年の“アジア通貨危機”の影響で一時的に縮小…その後2006年より営業本部で海外事業を再開、2014年には東京本店の傘下で国際支店として活動を始めた若い組織です。

現在は「継続的な人材育成」が課題…やがて直面する国内市場の減少を見据え、海外工事経験者の質・量の増強を図るとともに、日本政府のODAインフラ輸出政策の展開を視野に「戦略的な事業の推進&拡大」を計画しています。

2020年はCOVID19の影響で海外赴任者が緊急帰国…再渡航に祭しては事業所の防疫体制を強化。生活必需品の販売・物流状況に懸念がないか…医療施設や診療の不安はないか…注意深く分析したうえで再開に漕ぎ着けました。今回のコロナ禍により海外事業の活動様式は一変…その影響は計り知れませんが、私たちは「海外の開発途上国に高品質なインフラを届ける役割を担っている」と認識。新型コロナと共生する社会で、何を準備し何処で貢献するかを十分に検証した上で、これらの国々の発展に貢献していきたいと思っています。

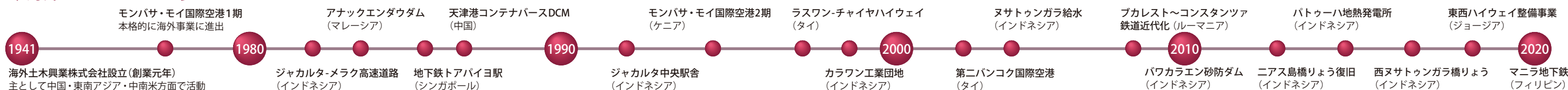


富田 洋 国際支店長
(1989年入社)



フィリピン支店が居を構えるエンタープライズセンタービル

海外プロジェクトの歩み



モンバサ・モイ国際空港1期(ケニア)



地下鉄トアパイヨ駅(シンガポール)



天津港コンテナバースDCM(中国)



ジャカルタ中央駅舎(インドネシア)



第二バンコク国際空港(タイ)



ブカレスト〜コンスタンツァ鉄道近代化(ルーマニア)



パトゥーハ地熱発電所(インドネシア)



東西ハイウェイ整備事業(ジョージア)



マニラ都市部の交通渋滞

マニラ首都圏地下鉄事業(2020年～)

日本のODA事業である「マニラ首都圏地下鉄事業」は、マニラ都市部の深刻な交通渋滞の緩和を目的に計画された同国初の地下鉄建設工事。北部のミンダナオ通りとアキノ国際空港が位置する南部ウエスタンビクトンを結ぶ全長31.4kmの区間に15駅舎と1車両基地を整備するという巨大プロジェクト…当社を含むJVは、先行して部分開業する6.9kmの区間に3駅舎(タンダンソラ駅・キリノハイウェイ駅・ノースアベニュー駅)と車両基地並びにそれらを結ぶ3区間に“総延長9.3kmのシールドトンネル”を建設するものです。

マニラでの工事は、私が過去に経験したジョージアやインドネシアとは施工環境が大きく異なり、都市部特有の制約や多様なステークホルダーなど課題が山積…故に「プロジェクトの成功」に欠かせないのが、ピーク時には500人を超える“現地スタッフの協力”です。今回の現地スタッフは、以前に竹中グループのプロジェクトを経験した頼もしい存在…ともに働くJV職員はもとより、彼らの活躍にも大いに期待したいところです。

人口の一極集中もあってマニラ都市部では慢性的に渋滞が発生…まさに「交通インフラの整備がフィリピン発展の急務」となっていますので、現地JV作業所及びフィリピン支店・国際支店が想いを共有し、日本の技術移転を行いながら一丸となって“早期完成”を目指したいと思います。



作業所長 山本 宏将さん
(1991年入社)



マニラ首都圏地下鉄/事業概要

実施機関：フィリピン政府運輸省(DOTR)

資金源：国際協力機構(JICA) 円借款 約1,000億円

施工場所：ルソン島(ケソン市〜タギッグ市)

工事概要：開削部分 336.6m (車両基地へのアクセス)
地下駅 3駅 計1.00km 駅設備含む
トンネル 径 6.7m×4.75m×2本(往復)
車両基地 28.8ha 整備機器も含む



海外も国内も工事の本質は同じ！

福原 幸司さん(2015年入社)

マニラ地下鉄は初めての海外工事ですが、国内で得た経験と知識がいかに重要かを実感。また、国内では当たり前だった「工事に適した品質」の資機材の調達と思うにまかせず…海外工事ならではの難しさも感じています。また、一緒に働くJV職員や文化の違う現地スタッフと仕事をしていくなかで…「広い視野」で物事を考えられるようになったと感じます。環境が異なる海外生活は苦勞することもあります。仕事のスキルアップだけでなく「人として成長できる」と思います。

現代社会が求める環境や安全・安心、生産革新などにかかわる最先端の技術開発とイノベーションを指向する独創的なシーズ技術の研究開発は竹中技術研究所を中心に推進しています。

専門分野の技術者が集う竹中技術研究所

1953年開設の竹中技術研究所は、「時代のニーズ」を先取りした竹中グループ全体の「新技術の創出」及び「実証フィールド」として世界トップレベルの研究を行い、お客様に満足いただける価値を提供しています。

建築や土木など建設全般にかかわる多様な専門分野の技術者が集い「TAKENAKA」の伝統と経験に革新を融合。関連部署や国内外の研究機関と連携しながら世に送り出した数々の技術は、我が国を代表する施工法として高い評価を得ています。

未来を拓く先端技術の研究開発

竹中グループは、これからの「まちづくり」に向けて「地球環境に貢献する技術」「安全・安心・快適性を支える技術」「最先端の空間創造技術」「高度な建設を可能にする技術」の4つの領域で研究開発・技術革新に取り組んでいます。

時代とともに変化する社会のニーズ、地域やお客様が抱える課題を的確に捉え…まちづくりのあらゆるステージで先端技術・ソリューションを提供していきます。



社外の方々と共創ゾーン

研究深耕と新価値創造を目指して

「新価値創造力の向上」を目指した2つのコンセプト…「一人ひとりの創造性が高まる環境へ」「オープンイノベーションを促進する環境へ」を念頭に、既成概念にとらわれないゾーニング・空間設計と最新の建築・設備・情報技術を適用してオフィスエリアを大規模にリニューアルしました。

① Creation 一人ひとりの創造性が高まる環境へ

ABW*でよく見られる「家具・内装による多様性」と、「建築設計による多様性」を掛け合わせ、創造性を刺激するさまざまな空間を構築。さらに、多様な個人が行き交う空間設計により、今までにないコミュニケーションが醸成されることで創造的活動の増加も期待できます。

② Innovation オープンイノベーションを促進する環境へ

外からの刺激によるイノベーションを目指して…課題の発見や解決策の創出につながる「深い対話の促進」と、「研究資源のオープンな活用」に適した環境へと整備しました。

分野や立場を超えたダイナミックかつセキュアな議論を加速させ…時にはお客様さえも巻き込みイノベーションの創出を後押しします。

*[ABW] Activity based Workingの略
「打ち合わせ」や「集中して思考する」などアクティビティに応じ、ワーカー1人ひとりが自由に執務エリアを選択する働き方。

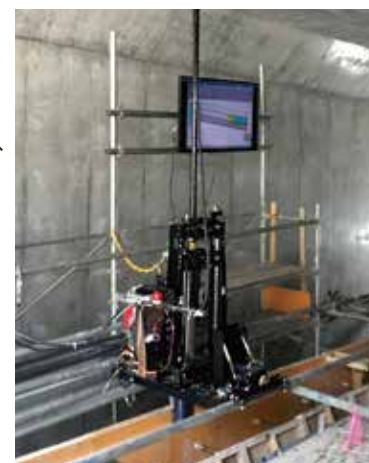
生産性向上に向けた技術革新

竹中土木は、2025年ビジョンのなかで「生産性向上」を掲げ、「安全・品質」に寄与する技術開発とイノベーションを推進しています。ICT・CIMの活用をはじめロボット・UAV・GNSSを用いた「無人化・自動化」技術の開発など、多様なアプローチで生産性向上に向けた「技術革新」に取り組んでいます。

研究成果の一例

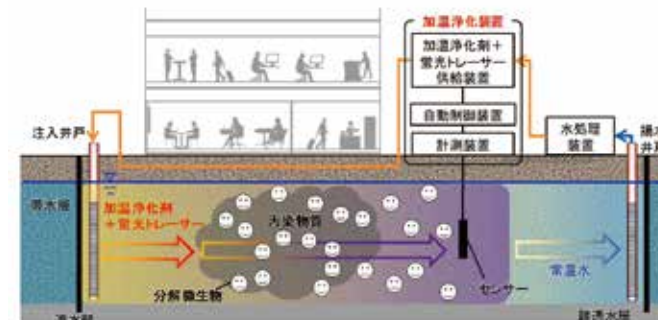
❖「コンクリート自動締固め管理システム」の開発

従来、人の手で行われていた「現場打ちコンクリートの締固め作業」の一部を機械にて代替…併せて、締固め位置等の情報を「見える化」するシステムを開発しました。今後は、現場適用で見えてきた課題を改良しながらシステムの高度化を進めていきます。



❖汚染地盤加温浄化システム

クロロエチレン類に汚染された地盤を浄化する技術。微生物による分解が最も活性化する25～30℃に加熱する機能と、不均質な地盤へ均一に加熱浄化剤を注入する制御機能を両立しました。



技術研修生を選抜し次代の技術者を育成

建設技術の高度化・多様化に対応すべく全店から「技術研修生」を選抜…2年間の実習・研究を通じて次代の技術開発や設計・施工の中核を担う技術者を育成しています。

柔軟な思考力&発想力を持った技術者に！

日々現場で起こる様々な課題に直面するなかで、技術力のもと「発想力」の重要性を痛感…多様性を持った土木技術者になりたいと思い研修生を希望しました。そのための一歩として技術研究所のロボティクスグループに所属…今まで経験したことのないデジタル分野の知識を習得するとともに、カメラなどの機器を使用した自己位置の把握や測量業務といった先端技術を活用する開発テーマに取り組んでいます。

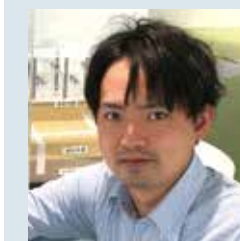


技術研究所における各分野のスペシャリストとの交流は貴重な財産…今回の研修を糧に「柔軟な思考を持った技術者」を目指します。

第61期研修生
(2011年入社) 千葉 俊二さん

的確に課題を解決する“現場力”を養いたい

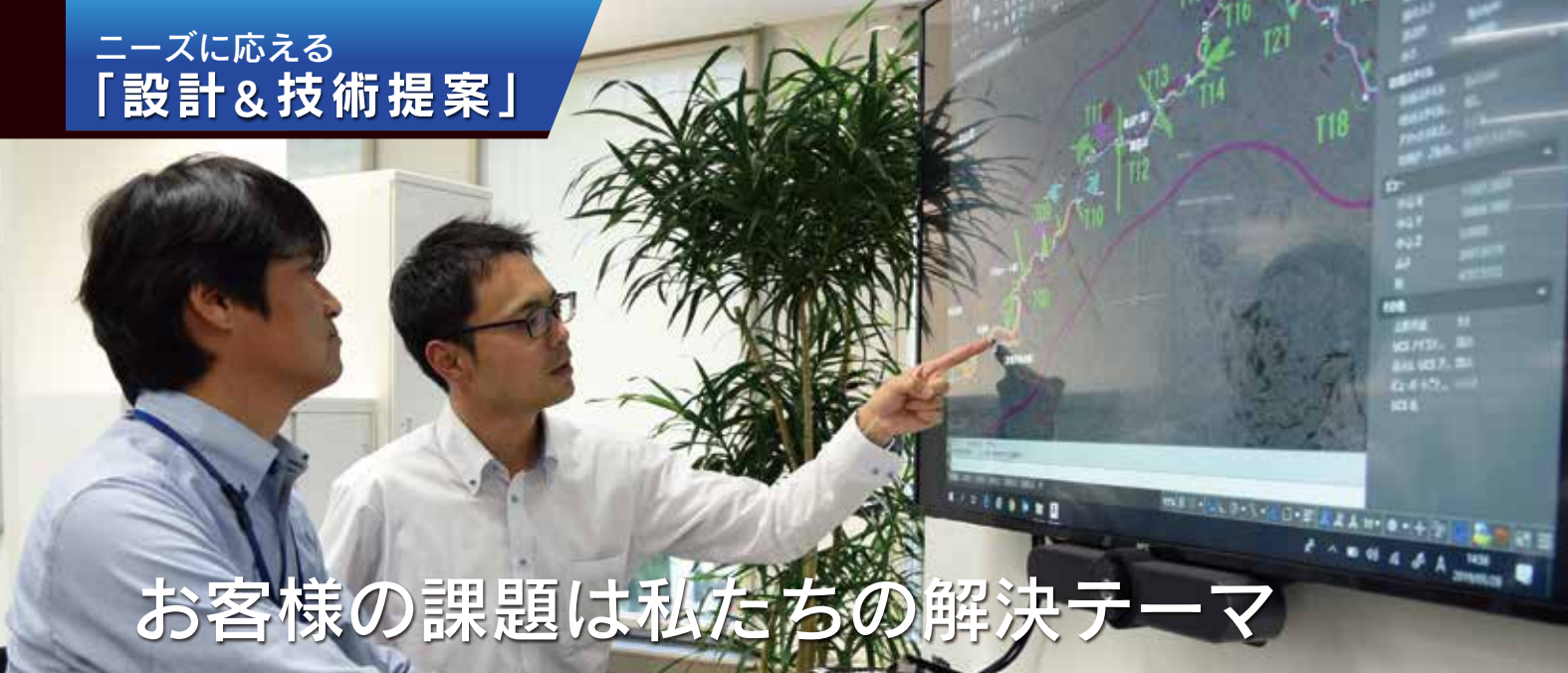
現場で遭遇する難題に対し豊富な知識・技術を駆使しながら的確かつ論理的に対応する…そんな技術研究所出身者に憧れ、お客様とのスムーズなやり取りで的確に課題を解決できる“現場力”を養いたく研修生を希望しました。研究テーマは地盤・地下工事に関するのですが、現場の技術検討対応と報告書の作成、各種行事の運営など他分野の知識を蓄える機会も多く…論理的思考力を養うとともにプロジェクトの流れや進め方を学ぶことができました。



充実した2年間の研修生活で学んだことを、現場に戻ってからも存分に発揮していきたいですね。

第61期研修生
(2013年入社) 中村 慎さん

多様な空間・環境を導入したワークスペース中央にはシンボリックな大階段



お客様の課題は私たちの解決テーマ

当社は、高度化・多様化する社会のニーズやお客様の要望に応える設計&施工を追求しています。企業理念と品質方針を基に、技術設計部が関連部署と連携しながら柔軟な発想で創造力を駆使…プロジェクトを具現化する「設計プラン」や「技術提案」でお客様が抱える課題を解決します。



トータルマネジメントで信頼を得つつける

社会の公器としての「会社」を管理運営していくために、管理部門がトータルマネジメントで生産活動と連携…効率的な組織運営でお客様からの信頼を得つつけます。

様々なインフラや社会基盤の整備を通じて「強い国土と人々の安全で快適な暮らしを守る」ことを使命とする当社は、調査・計画から設計・施工・アフターサービスまで「ものづくり」に関わる全てのステージで管理部門が協調しながら生産活動と連携。事業計画の立案をはじめ「ヒト・モノ・カネ・情報」の適正な調達・配分などトータルマネジメントで円滑な事業活動を支えています。また、事業の成果を集計・管理して企業活動全体の質の改善向上に努めるとともに、ステークホルダーの皆様適切に開示…お客様はもとより広く社会から信頼を得つつけることで、企業としての社会的責任を果たしていきます。

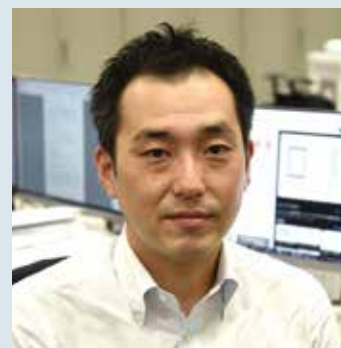


新東名高速道路下部工工事の技術提案



技術提案で日本経済発展の一端を担う！

日本経済の大動脈として中枢を担う「新東名高速道路」の秦野市域区間約1.0kmにおいて、橋脚24基・橋台3基を構築するという大規模工事の技術支援を担当しました。現場からの「重要な社会インフラをひび割れの無い最良の作品に！」という高い品質要求に…気候の影響や部材寸法を考慮しながら解析&トライアルを何度も重ね、低発熱・収縮抑制型高炉セメントに変更。さらに、発生を分散させてひび割れ幅の拡大を防ぐ補強鉄筋の追加配筋を提案。これらの対策によって、有害なひび割れを発生させることなく全ての構造物を完成するに至りました。



今回、熱意ある作業所のメンバーとともに技術提案という形で施工に関わり、経済発展の一端を担えたことを誇りに思います。
東京本店/技術・設計部
技術グループ 課長
角 拓郎さん
(2005年入社)

持続的に発展する“新たなまちづくり”



営業・設計・生産部門が意識を共有して…

当社が一括業務代行方式にて参画する「茨木南目垣東野々宮土地区画整理事業」の設計担当事務局員として携わり、施設管理者である役所との協議はもとより土地改良区や地元自治会、農業関係者、進出事業者(大規模商業施設・大規模物流施設)と協議・調整を行なっています。当事業は、大阪府茨木エリアが持続的に成長し続けるための賑わい&交流拠点となるべく「サステナブル・コア」をまちづくりコンセプトに掲げています。

施工のみならず事業全般を担う当社は、営業・設計・生産部門の“意識の共有”が肝要。円滑な事業進行を図りながら『新たなまちづくりを竹中土木に任せて良かった！』と地権者&行政に喜んで頂けるよう“誠心誠意”取り組んでいくつもりです。



大阪本店/技術・設計部
開発設計グループ 課長
喜多 保仁さん
(2017年入社)

“会計・税務の知見”で経営に寄与したい！

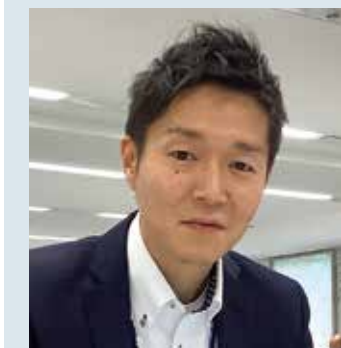
本社・財務部では、各本支店が纏めた経理データを引継ぎ、全社的な決算の取り纏めを行っています。「働き方改革」を推進しつつ“業務の質とスピードを確保”が当面の課題。そのため、業務手順の見直しはもとより関連部署との連携強化を推し進めています。業務上のトピックスは、「新収益認識基準」と「電子申告の義務化」…どちらも会計システムの変更を伴うため、業務内容への影響範囲を抽出しながら“実務を踏まえた利便性の高いシステムの構築”を目指しています。また、経営見通しを作成して各種会議体に提供する役割も担っているので、近い距離感で経営に携わっていると感じられるのもやりの一つ。今後は「会計・税務の知見」を養い、適格な経営情報を提供していきたいと思っています。



本社/管理本部
財務部
羽根田 英樹さん
(2010年入社)

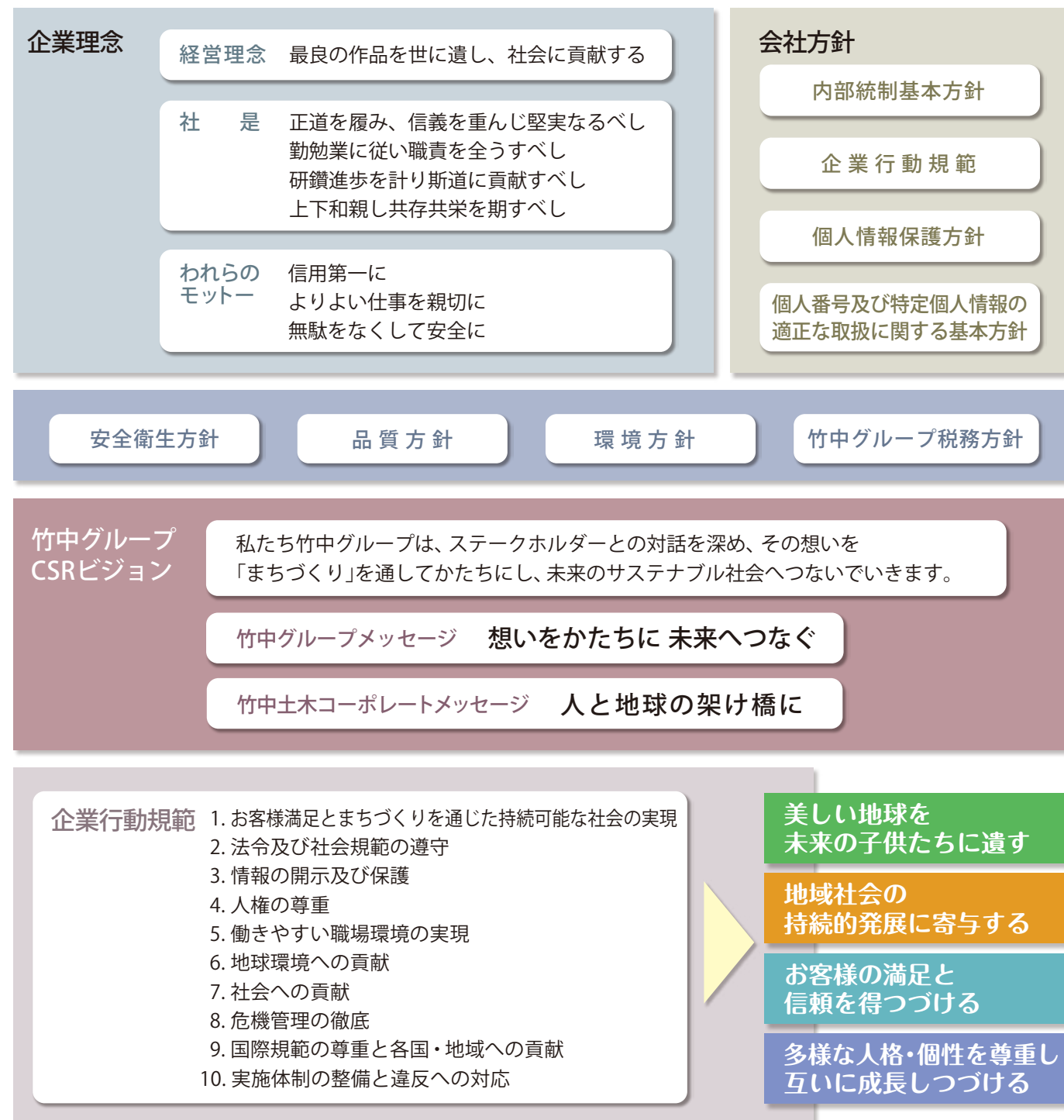
生産事務Gは現場と内勤部門をつなぐ“要”

現在所属する大阪本店の工事部・生産事務グループは、本店直轄作業所の管理業務全般を担っています。業務内容は多岐にわたり…作業所の事務支援及び管理業務はもとより工事損益管理&経理管理、書類照査・決算・税務・監査対応や行事・式典等、作業所の開設から工事完了まで運営に幅広く関わっています。円滑な施工&利益確保に向けて、生産事務グループは現場と内勤部門をつなぐ“要”としての役割を担っていると自負。現場で奮闘するメンバーと苦楽を共にしながら濃密な人間関係を構築…現場に一番近い部署で会社の事業



に関われることも“やりがい”に繋がっています。今後は、会社を取り巻く様々な関係法令や会計の知識を深めていきたいと考えています。
大阪本店/工事部
生産事務グループ 課長
加留部 哲也さん
(2005年入社)

当社は、創立以来『最良の作品を世に遺し、社会に貢献する』という経営理念のもと社是を基本姿勢として、お客様のニーズに応える『作品』を提供し続けてきました。そして、お客様満足とともに社会の信頼を得て社会的価値を高める事業活動を実践してきました。繰り返される自然災害の脅威やインフラの老朽化など、多くの社会的課題を抱える近年私たちが建設業に求められる機能や価値、果たすべき社会的責任は益々重要性を増してきています。当社におけるCSR推進の目標は、多様なステークホルダーの皆様との対話を深めながら事業活動を通して社会的課題を解決し、持続可能な社会の実現に貢献することにあります。竹中グループCSRビジョンのもと、SDGsの実現に貢献して企業評価を高めていくとともに原点である『企業理念』を社会的使命として一人ひとりが胸に刻み行動指針である『企業行動規範』を実践することで目標を達成していきたいと考えています。



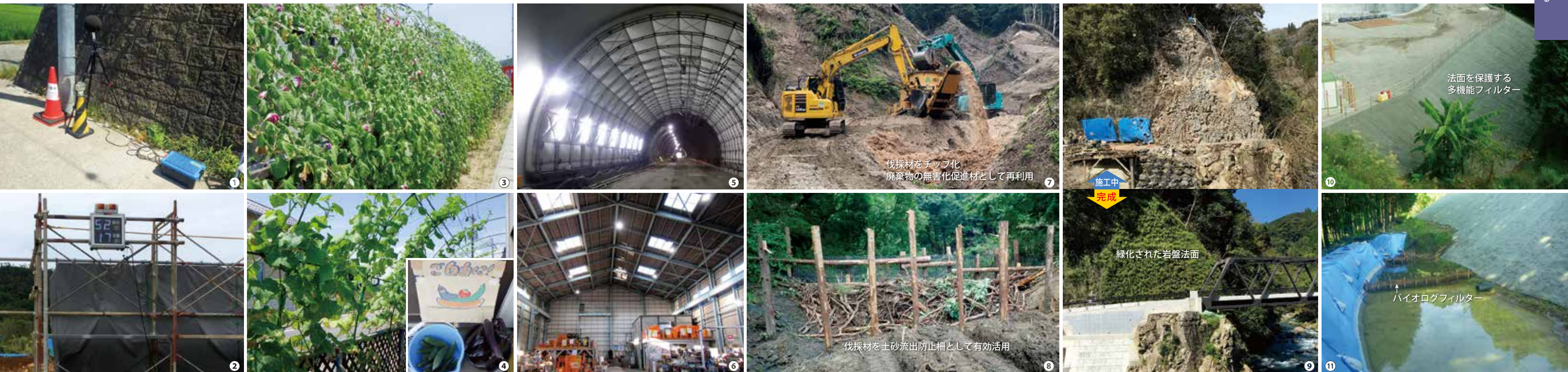
ステークホルダーの皆様とともに…「未来へつなげる」4つの想いと取り組み



2020年の主な活動計画と実績・事例

活動領域	主な活動計画	主な活動実績・事例	主なSDGs
地球環境	・地球温暖化を抑制する生産活動の展開 ・オフィス業務における省エネ・省資源の推進 ・生産活動から発生する建設副産物最終処分量の低減 ・建設副産物の3R活動推進 ・施工地域の周辺環境への配慮と周辺環境との調和 ・自然環境に配慮した設計及び施工の推進	・作業環境モニタリング(騒音・振動測定)を実施(P36) ・作業所において緑化活動を推進(P36) ・全国の事業所・作業所におけるLDE照明の導入を推進(P36) ・建設副産物最終処分量の低減とリサイクル率の向上(P36) ・現地伐採材を廃棄物とせず有効活用(P36) ・自然環境と調和する設計と施工の推進(P37) ・河川への濁水流出を抑制して自然環境を保全(P37)	     
地域社会	・地域住民や行政をはじめ教育機関・NPO・NGOとの連携と協働 ・地域社会に寄り添った生産活動及び社会貢献活動の推進 ・作業所における「地域防災」への貢献 ・地域の環境美化及び維持に貢献する活動の推進 ・地域への貢献と持続的な発展に寄与する知識の普及と展開	・市役所の技術系職員を招いて工事見学会を開催(P38) ・台風で被害を受けた地域の災害復旧活動を実施(P38) ・豪雨で崩壊した道路法面の応急対策、地域の環境美化活動(P38) ・廃泥を活用して津波から生産設備を守る「防潮堤」を築造(P39) ・学生を招いて技術研究所見学会、全国各地で展示会に出展(P39) ・小学6年生に「理科特別授業」を実施(P39)	       
お客様	・高品質の追求 ・知的財産の創出 ・事業のパートナー ・顧客満足の向上	・生産活動における協力会社と一体となった高品質の追求 ・知的財産権の創出及びお客様への還元 ・お客様の要望に応える最適なソリューションの創出と提供 ・お客様と社会の安全・安心を守る土木技術の革新と開発	     
従業員	・人材の育成 ・多様な人材 ・オンサイトミーティング ・創立記念総会	・従業員のキャリア形成と能力開発の実施及び支援 ・健康で豊かな生活のためのワークライフバランスの推進 ・女性活躍推進をはじめ多様な人材の採用・育成及び活躍促進 ・社員の意見をワークライフバランスや教育機会の拡充に反映 ・毎年全社員が参加する「創立記念総会」	   
マネジメント	・組織統治 ・公正な事業慣行 ・危機管理 ・安心と信頼	・内部統制の継続強化 ・公正な事業慣行及びCSR・コンプライアンス知識・意識の向上 ・法令改正に対応した社内周知と法的リスクの予防 ・災害発生時に備えた社内対応体制の整備と強化の継続	     

環境方針に基づき環境に配慮した設計や環境負荷を低減する施工、環境技術の提案を行っています。
また、省資源・省エネルギー、自然との共生、低炭素社会、資源循環への取り組みを推進しています。



①②：騒音・振動をモニタリングして周辺環境に配慮 ③④：「グリーンカーテン」を活用して環境負荷を低減 ⑤⑥：LED照明を積極的に導入して電力使用量を抑制

⑦⑧：現地伐採材の再利用と有効活用 ⑨：豊かな自然環境に溶け込む橋梁の設計と施工 ⑩⑪：河川への影響を抑制しながらの環境配慮施工

環境負荷の低減



当社は全国の建設現場において、環境負荷を最小限に抑える様々な工夫を行なっています。

❖ 騒音・振動測定による周辺環境への配慮

大阪府で進める土地区画整理事業では、工事エリアの一部に隣接する施設から騒音・振動に対する懸念が示されたことを受け、騒音計・振動計を設置して作業環境のモニタリングを実施。工事による騒音・振動を管理＆抑制することで、隣接する施設が抱える不安を一掃しました。

また、沖縄県宮古島の地下ダム工事では、地中に設置する止水壁の構築に大型の地盤改良機を使用するため、敷地境界線3箇所に騒音計・振動計を設置。モニタリングした計測結果を開示することで、地域との合意形成を図りました。

❖ 作業所における緑化活動の推進

福島県で進める土地区画整理事業においては、作業所事務所で植物を栽培して「グリーンカーテン」を設置。事務所内の室温の上昇を抑えて電力使用料を抑制するとともに、微力ながら地球温暖化防止にも貢献しています。

併せて、ゴーヤやナスビなども栽培…取れたての新鮮な野菜は誰もが持ち帰り自由なので、作業員の夏バテ防止や地産地消にもつながっています。

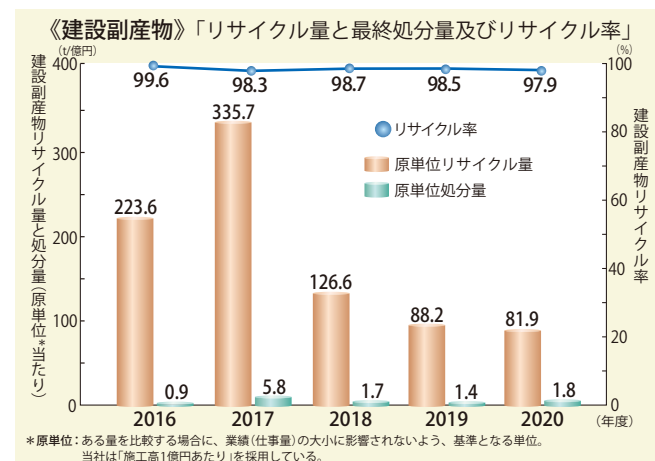
❖ LED照明の導入推進

当社は、地球温暖化防止に向けた取り組みの一環として全国の事業所や作業所におけるLDE照明の導入を推進しています。

資源の循環



当社は全国の作業所において、工事により発生する建設副産物の発生抑制と再利用・再資源化を促進し、資源循環型社会の形成を強力に推進しています。



❖ 現地伐採材の有効活用

千葉県で進める廃棄物最終処分場増設工事は、県が指定する「梅ヶ瀬渓谷自然環境保全地域」に隣接する緑豊かな自然環境の中で進められています。

そのため、工事によって発生する現地伐採材を廃棄物とせずにチップ化…将来、埋立て処分を行う際に廃棄物の「無害化促進材」として再利用する計画です。

さらに、伐採材を土砂流出防止柵として有効活用することで、自然災害の抑制・防止にも役立てています。

環境配慮設計と施工



当社は、施工地域周辺の自然環境に配慮…周辺環境と調和する設計・施工を推進しています。

❖ 自然環境と調和する設計と施工

熊本県で設計・施工一貫体制で行った橋梁工事の施工場所は、標高1,700m級の山々に囲まれた自然豊かな山間部。その緑深い山々の間を水量豊かな美しい河川が流れていました。そこで当社は、設計計画の初期段階から緑豊かな周辺環境に溶け込み“自然環境と調和する橋梁”を模索。その形状や色にいたるまで、多方面から様々な検討を行って「設計と施工」の計画を立案しました。

また、橋梁の設置工事によって造成される急峻な岩盤法面には、恒久性の高い吹き付け緑化工法を採用。周辺の自然環境と調和する施工を実施しました。



緑豊かな周辺環境に溶け込む橋梁

自然環境の保全



当社は全国の建設工事において、周辺の河川や海などの自然環境を保全する様々な取り組みを行っています。

❖ 河川への濁水流出を抑制

愛知県で進める橋梁橋脚工事では、施工場所に三河湾に注ぐ一級河川の支流が流れていたため、河川への影響を抑制する「濁水防止対策」を実施しました。

工事によって造成される法面を「多機能フィルター」で覆うことで、降雨時に河川へ流出する濁水の発生を抑制。加えて、現場内に「バイオログフィルター」を用いた仮設沈砂池を設置…濁水流出による河川への悪影響を出来る限り防止しました。

当社はこれからも全国の作業所において、自然環境への影響を抑制する様々な取り組みを積極的に推進していきます。



バイオログフィルターを備えた沈砂池で河川環境を保全

私たちは地域の皆様との相互理解に努め、良好な関係を構築しながら事業活動を行っています。
さらに、地域社会とのコミュニケーションを大切にしながら社会貢献活動を推進しています。



①②：工事見学会（熊本市トンネル工事） ③：作業所周辺の交通安全対策 ④：地元の「梅まつり」に参加 ⑤：傷んだ道路の舗装補修で地域に貢献 ⑥：作業所周辺の環境美化と清掃活動
⑦：台風で被災した地元住民の生活道路を復旧 ⑧：津波から事業継続を守る「盛土防潮堤」を築造 ⑨：学生の技術研究所見学会 ⑩：小学6年生に理科特別授業 ⑪：建設技術展2020近畿

地域社会との交流



竹中グループは、全国各地の事業所・作業所において地域コミュニティとの交流を深め、良好な関係を維持・発展させていきたいと考えています。

地域住民との相互理解に努め環境保全と地域の発展に寄与するため、従業員が行う社会貢献活動を積極的に支援するとともに、地域・行政をはじめ教育機関やコミュニティと密接に関わっているNPO・NGOとの連携・協働にも努めています。

❖ 工事見学会を開催

熊本市で進めるトンネル工事作業所では、発注者である熊本市役所の技術系職員35名を招いて工事見学会を開催。工事の進捗状況を公開するとともに、当社の技術力や安全対策などをアピールしました。

❖ 地域の要望に添った交通安全対策

住宅地に囲まれたニュータウンの中で行われる宅地造成工事では、地元への工事説明会において「住宅地内の道路が大型商業施設への抜け道になっていることが心配…」との声が上がったため対策を検討。抜け道となる道路に安全標識を設置して通行するドライバーや付近の住民に“注意喚起”を促す取り組みを実施しました。

❖ 地域の「梅まつり」に参加

熊本市のトンネル工事においては、地元の式祭典「梅林公園梅まつり」に作業所の職員が参加。梅まつりに集まった地域の皆様50名程と親睦を深めました。

地域環境の整備



❖ 台風被害の災害復旧支援

2019年10月に発生した台風15号・19号・21号は立て続けに関東地方を直撃…千葉県君津市の当社作業所周辺も甚大な被害を受けました。近隣の県道・市道は住民の生活道路になっていることから、当社は住民生活再開支援のために倒木の撤去やがけ崩れの修復など災害復旧活動を迅速に実施。これにより地元住民から「生活が早期に回復した」として厚く感謝されるとともに、発注者からも高く評価されました。
さらに、2020年度「竹中グループ環境・社会貢献賞」の優秀賞を受賞しました。

❖ 地域の道路環境整備

熊本市で進めるトンネル工事においては、2020年7月上旬の豪雨により近隣の道路法面が崩壊し、住宅地への土砂流入が懸念される状況に…。地元から相談を受けた当社は、迅速な応急対策を行って住宅地への土砂の流入を防ぎました。
また、地域の住民が日常使用している道路の舗装が経年劣化で傷んでいる状況でした。そこで当社は、発注者からの指示も頂き、地元からの要望に応じて傷んでいる道路の舗装補修を実施。地域住民の安全な通行に寄与しました。

❖ 作業所周辺の環境美化活動

当社は、全国の事業所や工事作業所において社会貢献活動を通じた地域環境の整備を積極的に推進。地域の環境美化や維持に寄与する清掃活動などを通じて地域の皆様との交流を深めながら、環境維持と地域社会の発展に貢献しています。

地域防災への貢献



東日本大震災以降『防災・減災』への意識は年を追うごとに高まり、なかでも「津波対策」は大きな関心を集めています。
また、近年の気候変動に伴う大型台風の発生や豪雨に伴う河川の氾濫、家屋の倒壊・流出、道路・鉄道網の寸断など自然災害の脅威に備えた国土の強靱化=人々の暮らしを守る“強い社会基盤”が求められています。

❖ 津波から生産設備を守る「盛土防潮堤」の築造

当社が液状化対策工事を施工する徳島県の家電メーカー工場は太平洋沿いに立地しており、地震が発生した際に津波被害が想定されるため、発注者から事業継続に必要な防災対策のための整備計画が求められました。
そこで当社は、「工事の地盤改良で発生する排泥を廃棄せずに『津波対策盛土防潮堤』の築造に再利用すること」を発注者サイドに提案…採用されたことで「災害への備え」と「廃棄物の有効利用」を同時に実現することができました。
当社はこれからも、安全・安心な暮らし守る環境整備に“土木の叡智と技”を駆使して取り組んでいきます。



緑化が進む完成した防潮堤

知識・技術の普及と発展



竹中グループは、作品や技術の公開を通して「ものづくりの精神」や知識・技術の普及と発展に寄与したいと考えています。
学生向けの竹中技術研究所見学会や小学生を対象とした特別授業、市民参加による現場見学会の開催などで、ステークホルダーの皆様とのコミュニケーションを推進しています。

❖ 農業土木系学生の技術研究所見学会

全国から農業土木系学生を招いて「技術研究所見学会」を開催。見学会後の意見交換会では…「民間ゼネコンと国家公務員の仕事内容の違いや就職活動に関することなど、将来の進路選択に大変役立つ内容だった」と好評でした。

❖ 地域の小学生に「理科特別授業」

大阪本店では地域の小学6年生を対象に理科特別授業を実施。「地震発生のメカニズムと地震に伴う大地の変化」をテーマに液状化現象の発生メカニズムを学ぶ「実験」を行うとともにその対策工事を紹介するなど、熱のこもった授業となりました。

❖ 全国各地で展示会に出展

防災や環境問題の解決に役立つ技術・活動を知っていただくとともに、ステークホルダーの皆様からの意見を反映した技術開発を目指して、全国各地で展示会に出展しています。

● 出展した主な展示会

10月/福 岡 九州建設技術フォーラム2020
10月/名古屋 建設技術フェア2020 in中部
10月/北海道 北海道 都市開発・建設総合展2020
10月/大 阪 建設技術展2020近畿



高度化・多様化するお客様の課題・ニーズに応える最良のソリューションを提供…

『高品質で魅力的な作品の創造』を継続することでお客様の満足と信頼を得つづけます。



①：「切羽挙動監視システム」の現場運用(福島県) ②③：跨高速道路橋の耐震補強工事(栃木県) ④⑤：大規模地震に備える防潮堤の地盤改良＆機能強化(東京都)

⑥：防災整備を終えた三洋電機徳島工場全景 ⑦：工場外周の防潮擁壁 ⑧：「TOFT工法」による地盤改良 ⑨：津波被害を抑制する盛土式防潮堤

高品質の追求

当社は、経営理念に『最良の作品を世に遺し、社会に貢献する』を掲げ、常に高品質を追求しています。

お客様の抱える課題やニーズに最良のソリューションで応えるために、プロジェクトの調査・計画から設計・施工・アフターサービスまでを一貫した流れとして、ISO9001に基づく『品質マネジメントシステム』を運用しています。

また、品質方針を定めプロジェクトの全てのステージで各部門が徹底した品質管理と継続的改善を図るなどトータルエンジニアリングでお客様の満足と信頼の継続を目指しています。

品質方針

- 1.「顧客満足の向上」を目指して、品質マネジメントシステムを構築し、実行し、維持し、継続的改善を行う。
- 2.品質マネジメントシステムの効果的運用により、顧客のニーズと期待及び要求事項への適合を図る。
- 3.品質方針を実現するため年度ごとに品質目標を設定し、すべての部門と階層に展開して、その達成を目指す。

プロジェクトを具現化するために各部門と連携しながら創造力を駆使…詳細な設計プランを練り上げる

- 耐久性・更新性の検討
- 周辺環境の検討
- 基本設計
- 実施設計・詳細設計
- 耐震・免震・制震構造設計

最適なスタッフで情報を収集・分析
お客様の要求を満足させる
最適なプランを提案

- 立地調査・評価
- 市場調査・分析
- デューデリジェンス調査
- 用地の斡旋・選定
- 事業プランの提案
- 土地利用計画
- コンピュータシミュレーション

トータルエンジニアリングで
“高品質を追求”
品質マネジメントシステム ISO9001

お客様の満足と
信頼の継続

知的財産の創出

当社は、特許権や商標権など『知的財産権』の創出に力を注ぎ、その活用にも積極的に取り組んでいます。竹中技術研究所を中心に、様々な分野で行われる研究開発から設計・施工までを対象とし、これら『知的財産権』を活用することによって当社の独自優位性を長期的に維持することが可能となります。

近年「特許出願」「権利取得」した技術

❖ Face Condition Viewer「切羽挙動監視システム」

山岳トンネルの掘削面での岩石落下や崩落の兆候をレーザーで捉え、リアルタイムで可視化して警報発信する技術。
神戸大学他と共同開発した本技術は、2019年度の官民研究開発投資拡大プログラム「PRISM」に採択され、最高評価を得ました。

2020年に「特許権利」を取得した主な技術

- ① ウレアーゼ生成微生物の製造方法及び地盤改良方法
- ② コンクリート構造物のパイプクーリングシステムにおける温度計測情報その他のリアルタイム可視化方法
- ③ トンネル工事に伴う騒音の低減装置
- ④ 基礎構築方法
- ⑤ 地中構造物の液状化対策工法
- ⑥ 地盤の液状化防止方法
- ⑦ 天井面の自動墨出し方法及び自動墨出し無人飛翔体
- ⑧ コンクリート構造物の補強構造、及びコンクリート構造物の補強方法

2020年に「特許出願」した開発技術は16件

事業継続のパートナー

❖ 防災・減災・復旧・復興をサポート

我が国は、世界の0.25%の国土面積で災害被害額は18.3%と世界有数の自然災害発生国…近年は、大規模な自然災害が頻繁に繰り返されています。また、首都直下地震や南海トラフ地震といった大規模地震発生の可能性が指摘されており、防災対策は喫緊の課題となっています。

当社は、阪神淡路大震災や東日本大震災での経験を活かしながら、『まちづくり総合エンジニアリング企業』を目指す竹中グループと緊密に連携。防災段階から災害発生後の復旧・復興まで、全てのステージで最良の技術・ソリューションを提供して「お客様の事業継続」をサポートします。

❖ サプライチェーンを守る…

一つの製品が手元に届くまでの工程(サプライチェーン)には多数の企業関わっており、災害等で一つの企業が活動を停止すると連鎖的に影響を及ぼします。東日本大震災では自動車用マイコンで世界市場シェア40%という工場が被災したため、自動車生産台数は前年同月の約4割に落ち込みました。パナソニックグループの三洋電機株式会社・徳島工場は、「民生・蓄電用リチウムイオン電池」生産の国内主要拠点ですが、海岸線に近いという立地から南海トラフ地震発生に伴う津波の浸水や地盤の液状化などの被害が想定され、サプライチェーンに大きな影響を与えることが懸念されていました。2015年よりお客様の「BCP策定」に竹中工務店と協調して係った当社は、事業継続に必要な防災対策を提案し、設計・施工

1988年に操業を開始したパナソニックグループ・三洋電機株式会社の徳島工場は、主に民生・蓄電用リチウムイオン電池を生産する国内の主要拠点。6棟の建物が立地する17.7万㎡の敷地は海岸線から約1kmと近く、南海トラフ地震発生時には地盤の液状化と津波の浸水によって被害を受けることが予想されていました。そこで、地震対策について御社と共に検討した結果…「防潮堤築造と共同溝液状化対策が必要」との結論に至りました。防潮堤築造にあたっては、阪神淡路震災など数多くの実績を有する『TOFT工法』、共同溝液状化対策については竹中技術研究所で数値解析と遠心模型実験を実施し、弊社の地盤状況に合わせた最適条件での『高圧噴射攪拌工法』の提案を頂きました。おかげさまで工事は順調に進捗し、2020年9月に無事竣工を迎えることができました。



今後も「BCP対応」について御社よりアドバイスを頂きながら、リチウムイオン電池の安定供給に向けて事業活動を継続していきたいと考えています。
パナソニックグループ
三洋電機株式会社/徳島工場長
北山 博章さま

一貫体制で防災整備を実施。浸水高さT.P.+4.5mの津波から生産設備を守るため、格子状地盤改良「TOFT工法」を基礎とした盛土式防潮堤(延長801m)と杭式擁壁(延長475m)を敷地全外周に設置。さらに、震度6強を想定した地盤液状化対策として、工場のライフラインを収めた既存共同溝の周囲に「高圧噴射攪拌工法」による地盤改良体を作成。事業継続への貢献が期待される本工事は、2020年9月に無事竣工しました。

❖ 社会インフラ継続に向けて…

自然災害発生時にサプライチェーンを含めた経済活動を機能不全に陥らせない「社会インフラの継続」が求められ、耐震補強や機能強化などの取り組みが進められています。東北自動車道の栃木IC～宇都宮IC間では、高速道路を跨ぐロッキング橋脚を有する7橋について地震時水平力を確保し、落橋防止等を図るための耐震補強工事を行っています。「高速道路を供用しながら…」という厳しい制約条件の下で、2021年度中の竣工に向けて着実に工事を進めています。また、堤防・水門・排水機場・ポンプ所等に守られた東京都東部の沿岸部及び低地帯には約300万人が生活しています。大田区の市街地と羽田空港を隔てている多摩川支流の海老取川左岸では、マグニチュード8.2の海溝型地震など考える最大級の地震に対して「防潮堤の機能」を保持するため、河床部及び既存防潮堤下部の高圧噴射攪拌工法による地盤改良を実施。加えて鋼管矢板圧入によって耐震対策を図っています。当社が担当したおよそ70mの施工区間の工事は、2021年5月の竣工に向けて佳境を迎えています。

当社は、人権はもとより多様な人格・個性が尊重される職場づくりを行うとともに安全・健康にも配慮…
誰もが安心して働ける職場環境を確保することで、従業員とともに持続的な成長を実現します。



①②③④:「新入社員現場研修」の様子 ⑤:外国籍のグローバル社員も活躍 ⑥:キャリア採用の技術者が現場の即戦力に… ⑦:前線で活躍する女性技術者 ⑧:女性管理職 ⑨:総ての従業員が参加する「創立記念総会」 ⑩:経営トップと社員がフェイス-to-フェイスで語らうオンサイトミーティング ⑪:定年嘱託のベテランが「知識・技術」を次世代へと継承

未来を担う人材の育成

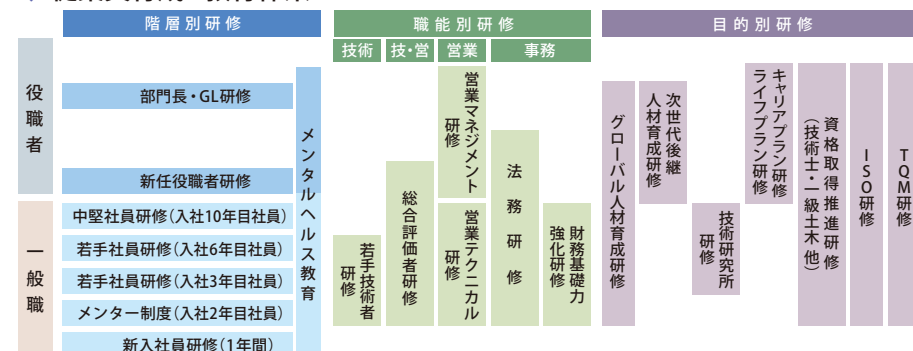
当社は、「自ら考え行動できる人材が真のプロフェッショナルとして時代に適合した新たな価値を創出する」という考えのもと、仕事を通じた人材育成を重視しています。

1年間に及ぶ「新入社員研修」をはじめ、一般職や役職者のスキルアップを図る「階層別研修」、技術系から事務系社員まで幅広く対応する「職能別研修」、グローバル人材の育成や技術士等の資格取得を推進する「目的別研修」など、社員一人ひとりのキャリア形成を支援する継続的な人材育成・教育に力を注いでいます。

❖「メンター制度」を推進

他部署の先輩社員がメンター（相談者・助言者）となって、入社2年目社員をサポートする制度を導入。心身のケアをしながら将来のキャリア形成を支援するとともに、他部署との連携・ネットワークにより組織の活性化を図ります。

❖従業員育成・教育体系



多様な人材

当社は、性別・国籍・年齢などにかかわらず、多様な人材の誰もが働きやすい職場環境の構築を目指して、ダイバーシティ・マネジメントを推進しています。

増えつづける女性技術者を含む新卒採用はもとより、即戦力として期待されるキャリア採用を推進して有為な人材を確保。また、定年再雇用の促進により経験者が持つ「知識・技術の伝承」と若い技術者のスキルアップ等にも力を注いでいます。さらに、女性従業員の就業継続とキャリアサポートに焦点を当てたダイアログや「女性ならではの」意見を取り入れた職場環境改善に取り組むなど「女性活躍推進」を加速させています。当社は、今後もダイバーシティの意識醸成を図りながら、多様な社員一人ひとりがより働きやすい職場環境を実現する施策を推進していきます。

主な従業員支援制度（法定を上まわるものを記載）

事項	制 度	内 容
育 児	短時間勤務	子女が小学校4年生の始期に達するまでの間について申出可
	所定外勤務の免除	子女が中学校1年生の始期に達するまでの間について申出可
	始業・終業時刻の繰上げ又は繰下げ	子女が中学校就学の始期に達するまでの間について申出可
	時間外勤務の制限	深夜勤務の制限
	勤務時間の繰り上げ、繰下げ特例	勤務時間を変更せずに、時間帯を最大1時間半迄繰上、繰下げが可能
介護	介護休業の取得日数	対象家族1人につき通算365日迄3回を上限に分割取得可
介護・私傷病	シックリブ（失効年休の積立制度）	私傷病及び家族の介護のために失効年休を最大30日まで利用可
特別休暇	勤続10・20・30年目に付与される長期有給（勤続10年目は土休日除く5日、勤続20・30年目は同10日を付与）	有効期間は4年間連続または分割取得可 未消化日数は特別シックリブに積み増しされ定年まで利用可
災害	被災時の見舞金制度	自然災害などに遭った場合に支給

オンサイトミーティング

当社は「企業の一番の財産は従業員」と捉え、経営トップが事業所や作業所に出向いて社員とフェイス-to-フェイスで懇談する『オンサイトミーティング』を継続して行っています。2007年からの開催数は105回、参加した社員は延べ901名。毎回8～10名の若手・中堅社員が参加…社長からは「経営層の想いと考え」「経営環境及び課題」など、社員からは、職場環境の改善など「会社への要望」や「仕事に対する考え方と将来の夢」などについて、それぞれ意見が交わされます。さらに、ミーティングの内容は議事録を作成して全社員で認識を共有。時代の潮流を反映した意見や考えなど『社員の想い』を、ワークライフバランスの充実や教育機会の拡充等にフィードバックすることで「企業の一体感」を醸成しています。

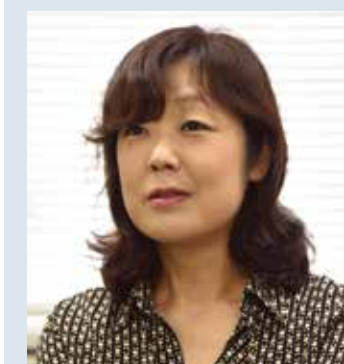


創立記念総会の開催

当社は毎年「創立記念総会」を開催…各本支店ごとに社員が一同に会して経営方針の説明や優れた業務成果に対する表彰を行うとともに懇親会を催し、経営トップや仲間との歓談を通じて役職員の一体感を醸成しています。

人との交流が“考え方や知識の源泉”に…

初めて配属された現場が大規模な宅地造成工事…多くの先輩方にご指導をいただきながら、土工事・構造物・管工事など多様な工種を経験。当時は「女性の施工担当」という珍しさもあって皆さん優しく…協力会社や地元の方々とのやり取りはとても新鮮に感じていました。社会の流れは「働き方改革」へと進み、女性にとって働きやすい環境になりましたが、業務の効率化が求められ、私たちの時のように「時間をかけて経験を積む」ということが難しくなったように思います。また、出産や子育てなど女性が働き続ける上で悩むことは多々…そんなライフイベントを乗り越えて仕事を続けていくには、「周りの方々の理解と協力」が重要です。常に『今できることにベストを尽くす』という姿勢で、元気に全力を出して事にあたれば、必ず周囲に伝わり誰かが助けてくれる…。



コミュニケーションは“考え方や知識の源泉”ですから、若い人たちには気軽に聞く姿勢で積極的に人と交流して欲しいですね。

東北支店/営業部
官庁グループ 課長
工藤 幸江さん
（1995年入社）

当社は企業理念のもとで「品質経営」を実践…お客様の満足や社会からの信頼を得るとともに企業としての社会的価値を高めながら社会的責任を果たしていきます。

組織統治

経営の質の向上と迅速・的確な意思決定を行うガバナンスの充実

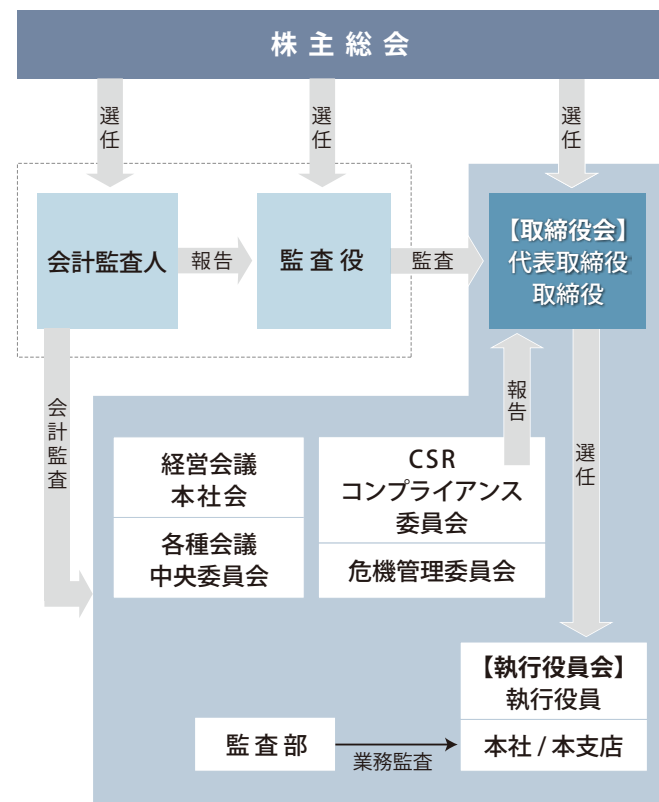
お客様や広く社会から信頼を得て、企業の社会的価値を高めるという考えのもと、企業活動全体の質の改善向上と経営の倫理性・透明性を高めるために、ガバナンス体制を構築し適正な運営に取り組んでいます。

当社は、経営トップが率先垂範して企業倫理の確立と教育・啓蒙を図っています。社員一人ひとりが、企業行動規範を徹底実践することで、法令及びその他の社会規範を遵守…公正・透明・自由な競争並びに適正な取引を行うことで社会的責任を果たしていきます。

また、ステークホルダーの皆様から信頼され社会的責任を果たしていくために「CSR・コンプライアンス体制」を構築。お客様の満足と社会からの信用を得ながら、良識ある企業活動を実践しています。

内部統制については「内部統制基本方針」に基づき、コンプライアンスを含むCSR活動の推進やリスク事象発生時の危機回避と軽減、及び平時における危機管理活動の推進など、全社的な体制整備や啓発に取り組んでいます。

コーポレート・ガバナンス体制図



CSR・コンプライアンス体制を構築し啓発活動を行っています

CSR及びコンプライアンスを維持・向上させる体制として、社長をトップとする「CSR・コンプライアンス委員会」を設置し、企業行動規範及び関係法令の遵守を推進しています。

また、CSR・コンプライアンスを推進する体制として本社に「CSR・コンプライアンス推進責任者」、各本支店に「CSR・コンプライアンスリーダー」を選任し、当社並びに竹中グループの一員としての教育・啓発の推進役としています。

具体的な取り組みとしては、竹中グループ全体で「eラーニング」を利用したCSR・コンプライアンス教育の実施や「CSR・コンプライアンスニュース」の配信を行うほか、毎年11月に実施する「竹中グループCSR・コンプライアンス月間」において、社外講師による「CSR役員セミナー」の開催や職場における「CSR・コンプライアンスミーティング」を実施。

こうした活動を繰り返し行うことで、コンプライアンスを含むCSRに関する知識・意識の向上を図っています。



CSR役員セミナー

コンプライアンス・ヘルプライン

コンプライアンス経営への取り組みを強化するために、コンプライアンス違反等に関する通報を適切に処理し、自浄作用を高めるとともに、外部への通報による風評リスク等を減少させることに資するため、従業員用としてコンプライアンス・ヘルプライン及び竹中グループ・コンプライアンスヘルプラインを、また、社外の協力会社関係者用としてパートナーズ・ネットを設置しています。

公正な事業慣行

関係法令の改正内容の周知徹底と建設法令遵守への継続した取り組み

「法令順守」に基づいた適切な企業活動を実践するために、関係する様々な法令などの改正及び運用動向の社内への周知・徹底に努めています。会社経営等にかかわる法改正はもとより建設業や労働安全・環境などの実務的な法令の改正に際して、適切かつ確実な対応を図っています。

毎年、国の定める「建設業取引適正化月間」にあわせて、作業所における「建設業法の順守」・「社会保険加入状況の確認やフォローの確実な実施」について、期間を設けてあらためて確認を行うなど、全社を挙げて適切に取り組むよう周知徹底しています。

反社会勢力への対応

全国の都道府県において「暴力団排除条例」が施行され、暴力団を取り巻く法整備の状況や社会における反社会勢力に対する意識が大きく変化しています。

そうした中で当社は従来より、全ての取引会社との間において「暴力団排除に関する契約」を締結するとともに、取引会社や関係各所と幅広く情報を共有し、全社的に水平展開を図りながら「反社会勢力との関係遮断」を徹底しています。

安心と信頼

ステークホルダーの皆様からの評価《2020年の主な評価・表彰》

工事表彰	感謝状	首都高速道路(株)	・首都高上部工補強(永福)工事
	感謝状	中日本高速道路(株)東京支社	・新東名高速道路ぐみ沢上高架橋他1橋(下部工)工事
	感謝状	積水ハウス不動産関西(株)	・マストヒルズ東豊中開発工事
	他の模範・工程管理優良	東日本高速道路(株)東北支社 いわき工事事務所	・大久地区地すべり対策工事
	感謝状	中日本高速道路(株)東京支社	・新東名高速道路葛葉川橋(下部工)工事
	他の模範・成績優秀	大阪府北部流域下水道事務所	・高槻汚水幹線緊急補修工事
その他表彰	感謝状	旭化成株式会社	・馬見原発電所横断橋設置工事
	感謝状	国土交通省関東地方整備局関東技術事務所	・建設業界のイメージアップ
	国土技術開発賞・最優秀賞	国土交通大臣	・住みながら宅地境界を地盤改良壁で囲む液状化対策工法
	建設事業推進の貢献	国土交通省関東地方整備局長	・無事故で工事完遂(東京本店幾多の工事)
地域貢献	全建賞	(一社)全日本建設技術協会	・わが国の建設事業発展に貢献
	全建賞	公益社団法人 土木学会	・放射性物質汚染の除去
	感謝状	水土里ネット 祇園町他二ヶ町土地改良区	・八木用水クリーン活動
	交通安全推進に貢献	和泉市はつが野松風台自治会	・交通安全看板設置(はつが野3丁目開発)
	感謝状	大阪市立三軒家東小学校	・地元小学生に地震や液状化被害についての課外授業を実施
	感謝状	厚生労働大臣	・献血推進への貢献

危機管理

BCPに基づく災害等緊急時のリスク管理

竹中グループは、首都直下地震や南海トラフ地震など“自然災害”を想定した事業継続計画『BCP』を策定。各本支店に設置する災害対策本部を中核に従業員・家族の安否確認、作業所・自社施設に加え当社施工施設・公共施設の被災状況確認及び復旧対応等を早く全社的に行う体制を整えています。年一回、巨大地震など大規模災害発生を想定した「グループ合同震災訓練」を継続して行っていますが、2020年は新型コロナウイルス感染症に配慮して中止となりました。

そこで、当社は単独で災害時の安否確認やグループ間のコミュニケーション支援を目的とした「TAKENAKA BCポータル」の機能&アクセス方法の確認などの震災訓練を実施しました。今後も、厳しい条件を想定した訓練を継続的に実施していくことで『BCP』をさらにスパイラルアップし、大規模災害時の具体的な行動基準を周知・徹底していきます。



竹中グループ合同震災訓練(2019年)

将来に亘って健全な事業活動を継続するため、積極的にステークホルダーとの対話を行っています。
そこで議論された意見・課題等は全社で共有し、様々な事業分野へフィードバックしています。



①②：技術研究所見学会 ③④：インターンシップ ⑤：事業主研修会 ⑥：合同安全品質環境パトロール ⑦：労働災害ゼロに向けて…安全総大会（東京）

未来を担う学生への支援と交流

当社は「永続的な発展を継続するためには従業員の確保・育成が肝要」と考え、建設業の未来を担う学生たちへの支援と交流に力を注いでいます。

❖ インターンシップ（就業体験）

学生にとって将来の仕事を肌で感じるインターンシップは重要ですが、本年はCOVID-19感染防止に配慮…参加人数を抑えとともにマスク着用と手洗い・うがいを徹底。学生へのフォローはWEBを活用する等の対策を講じて実施しました。今後も当社は、学生たちとの交流を通じて“意見や想い”などを企業として共有…将来を担う技術者のキャリア形成や人材育成力の向上に役立てていきます。

❖ 作業所・研究所見学会

学生を招いた見学会等は“Withコロナ”を念頭に、マスク着用と手洗いの励行など感染防止に配慮しながら開催しました。当社は、学生の建設業への理解やキャリア形成に資する場として…また、企業が果たすべき社会的責任の一環として今後も作業所見学会などを継続していきます。

『労働災害ゼロ』を目指して

当社は、労働災害につながる潜在的危険要因を排除し、災害発生リスクの低減に努めています。特に「墜落災害」「ヒューマンエラー」「高齢者による災害」の防止活動に重点をおき、安全パトロールや垂れ幕の掲示、冊子の配布等を行って潜在的危険を事前に摘み取る活動を展開しています。

協力会社とのパートナーシップ 絆を深める「竹栄会活動」

「竹栄会」は、全国176の協力会社で組織され、技術力の強化と生産性の向上、並びに労働災害防止活動を積極的に推進し、会員相互の資質向上と体質の強化を図って共存共栄の実をあげ、会社の発展に寄与する事を目的としています。「生産性向上事業」をはじめ「労働災害防止事業」や「労災互助事業」など活動内容は多岐にわたり、当社は良きパートナーとして多方面における協力・支援体制をとっています。

❖ 生産性向上事業

「建設キャリアアップシステム」をはじめ働き方改革、担い手の確保・育成に関する情報を提供しています。また、厚生労働省が進める新しい取り組みや建設業法等の法令改正等の動きに対応するために「事業主研修」の開催を継続しています。

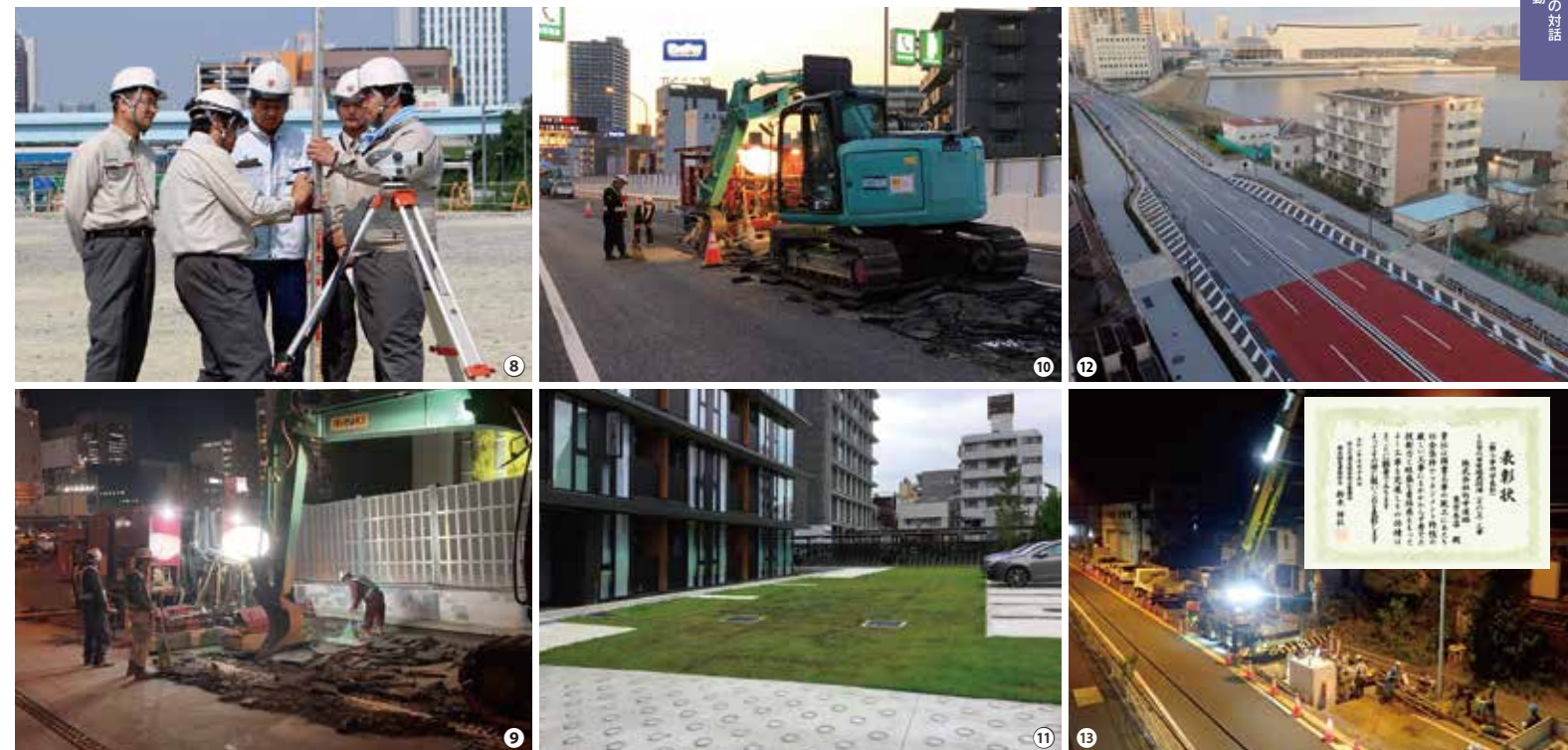
❖ 労働災害防止事業

安全衛生管理者や職長への研修を支援するとともに、「墜落体感マネキン」を用いた安全教育を支援。また、合同で安全品質環境パトロールも実施しました。

全国7地区で安全総大会を開催

毎年7月1日～7日までの全国安全週間に先立ち、全国7地区の竹中土木安全衛生管理委員会と竹栄会とが共催して「安全総大会」を開催。安全衛生に秀でた作業所・協力会社及び技能労働者を表彰…安全意識の向上を図るとともに相互の発展に寄与するパートナーシップを強化しています。

竹中グループの「道路舗装スペシャリスト」として豊富な経験と実績をもつ竹中道路は、生活に欠かせない“道”の整備や維持管理、新技術の開発などでお客様の信頼を得つづけています。



⑧：インターンシップ（2019年） ⑨⑩：IH式舗装撤去…阪神高速道路（大阪市） ⑪：ハニカムグリーン（江東区） ⑫：遮熱性舗装（江東区） ⑬：国土交通省関東地方整備局から「難工事功労表彰」

「働き方改革」で魅力ある会社へ

竹中道路は、長時間労働削減や休暇取得向上によるワークライフバランスの改善に取り組み、働きやすい職場環境づくりを推進しながら「魅力ある道路会社」を目指しています。その一環として、官公庁発注の道路工事においては、「4週8閉所」が推進されており、当社も全工事において実施に向け取り組んでいます。天候に影響されやすい舗装工事において「完全週休2日」は高いハードルですが、魅力ある産業として将来に亘って発展していくために、今後も継続して取り組んでいきます。

建設業の魅力を伝える活動

竹中道路では「建設業について深く知ってもらう活動」の一環として、本支店・作業所・合材工場の各地において、建設業を志す学生を対象とするインターンシップや見学会等のイベントを開催しています。2020年は“COVID19”に配慮して見送られましたが、今後も内容をブラッシュアップしながら、建設業及び当社の魅力を伝えていきます。

社会貢献活動の推進

社会貢献活動として、2018年より月1回の清掃活動「江東区アダプトプログラム（こうとうまち美化応援隊）」に参加しています。“COVID19”の影響により、2020年春からは実施できませんでしたが、今後も「地域に根ざした企業」として社会に貢献していきます。

「保有技術」の展開

❖ IH式舗装撤去

「IH式舗装撤去」は、鋼床版とアスファルト舗装の接着面を加熱して表層・基層を一体で剥離する画期的な技術です。2020年11月、阪神高速道路で19年ぶりに行われた環状線リニューアルは、1号環状線を通行止めにする大規模補修となり、鋼床版の既設アスファルト舗装撤去は「1号機」「2号機」の2台を使用して約70時間連続施工しました。

❖ 遮熱性舗装…『爽やかコート』

路面温度の上昇を低減させる遮熱性舗装は、東京オリンピック・パラリンピック開催時のアスリート・観客への遮熱対策に有効とされ、東京都江東区において競技大会会場周辺の歩道に施工しました。

❖ ハニカムグリーン

昨年に引き続き岩手県陸前高田市の高田松原津波復興記念公園の遊歩道で「ハニカムグリーン」を施工。また、竹中工務店の東陽3丁目Dの駐車場等にも施工され、美観に優れ利用者にも優しい芝生舗装として、都市部の緑化面積の確保やヒートアイランド対策にも期待されています。

お客様満足の向上

国土交通省関東地方整備局の工事において、社内的条件やマネジメント特性の厳しい工事に対する「難工事功労表彰」を3件、国道事務所長から受領。また令和元年台風19号の災害対応に対する感謝状を関東地方整備局長から受領しました。



人と地球の架け橋に

 竹中土木

<https://www.takenaka-doboku.co.jp/>



R30

古紙パルプ配合率90%再生紙を使用



植物油インキを使用しています。